

---

第6回 三朝町議会定例会会議録（第2日）

平成29年12月12日（火曜日）

---

議事日程

平成29年12月12日 午前10時開議

日程第1 一般質問

藤井克孝 議員  
松原成利 議員  
石田恭二 議員  
山口博 議員  
清水成眞 議員

---

本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

藤井克孝 議員  
松原成利 議員  
石田恭二 議員  
山口博 議員  
清水成眞 議員

---

出席議員（12名）

1番 松原成利	2番 松原茂隆
3番 石田恭二	4番 吉田道明
5番 山口博	6番 清水成眞
7番 藤井克孝	8番 遠藤勝太郎
9番 平井満博	10番 山田道治
11番 牧田武文	12番 福田茂樹

---

欠席議員（なし）

---

欠 員（なし）

---

事務局出席職員職氏名

局長 ..... 山 根 猛 昭 副主幹 ..... 小 椋 智 子

---

説明のため出席した者の職氏名

町長 ..... 松 浦 弘 幸 副町長 ..... 米 原 英 章  
教育長 ..... 西 田 寛 司 総務課長 ..... 青 木 大 雄  
会計管理者 ..... 片 岡 里 美 危機管理課長 ..... 佐々木 敦 宏  
財務課長 ..... 赤 坂 英 樹 町民税務課長 ..... 山 中 恵 子  
子育て健康課長 ..... 新 寛 福祉課長 ..... 大 村 真優美  
農林課長 ..... 小 椋 泰 志 企画観光課長 ..... 椎 名 克 秀  
建設水道課長 ..... 早 苗 睦 巳 教育総務課長 ..... 藤 井 和 正  
社会教育課長 ..... 松 原 照 宗 文化ホール館長 ..... 吉 田 弘 幸  
社会教育課参事 ..... 馬 野 真由美 農業委員会事務局長 ..... 大 村 哲 也

---

午前10時00分開議

○議長（福田 茂樹君） おはようございます。

ただいまの出席議員数は12名であります。定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

本日届け出のあった欠席者は、議員はありません。当局では、建設水道課、河村参事が災害査定業務のため欠席です。以上、報告いたします。

本日の議事日程は、お手元に配付しているとおりであります。

---

日程第1 一般質問

○議長（福田 茂樹君） 日程第1、一般質問を行います。

一般質問は、5名の方から通告を受けておりますので、日程の順序により、これを許します。

初めに、7番、藤井克孝議員の三朝町人権意識調査についての質問を許します。

藤井克孝議員。

○議員（7番 藤井 克孝君） 今定例会におきまして、新しい町長を迎え、この議会で一般質問をさせていただきます。

人権に関することについて何うものであります。

ことし1月、町民の何人かを抽出してアンケートを実施されましたが、いまだに町民全般に結果の公表がされていません。また、1、アンケートの狙いは何なのか。2番目、アンケートは何年ごとに実施しているのか。3番目に、町民の何%を抽出して実施したものか。4番目に、町民における人権教育推進上、結果や課題は見つかったか。5番目に、結果の公表についてはどう考えているのか。

また、三朝町における人権問題について、実態やこれまでの取り組みに対する成果や課題を見ることであれば、今、我が町で人権に係る課題はこういうものがあります、今後、これこれの施策でさらに推進していきますといったようなことを広く町民に示すべきだと思いますが、教育長にお伺いいたします。

○議長（福田 茂樹君） 答弁、西田教育長。

○教育長（西田 寛司君） 藤井克孝議員の三朝町人権意識調査についての御質問についてお答えいたします。

まず、アンケートの狙い、実施時期についてでございます。

三朝町人権・同和教育推進5カ年計画は、5年置きに意識調査を実施し、課題を分析し、次の5カ年の推進計画を策定しているところでございます。人権・同和教育推進計画を策定するために実施しましたアンケート調査でございます。現在の第5次三朝町人権・同和計画推進5カ年計画は、平成25年3月に策定し、人権の町、三朝町の実現のため、年次目標を定め、推進してまいっております。

平成30年度からは新たに6次5カ年計画を策定し、人権教育の推進を図っていく所存でございます。現在、その5カ年の推進計画の策定作業中でございます。

次に、町民の何%を抽出して実施したものかという御質問でございます。

16歳以上の町民約6,000人を対象に、10.5%に当たる630人を無作為抽出し、無記名回答で実施しております。

次に、本町における人権教育推進上、成果や課題は見つかったかという御質問でございます。

アンケート結果から見えてきた成果といたしましては、人権意識が少しずつ深まっていることが確認できているということでございます。町民の皆さんが子育て、高齢化問題、医療、福祉な

どの身近な社会問題と人権を密接な関係があると考えておられることから、人権教育の継続的な推進による成果だと考えております。

人権教育を推進する上での課題といたしましては、人権教育の学習会、講演会等への参加については、人口の減少の影響もありますが、参加者数が年々減少の傾向となっております。アンケートの結果から言えることは、若年層の方々が忙しい時間帯で都合がつかなかった、知らなかったなどの理由で参加されていない状況が明らかになっております。

現在、年間を通して講座、講演会、学習会など複数の学習機会を提供しています。今後、さらに社会の変化を考慮しながら、広報の方法、開催の時期、曜日や時間のあり方など、工夫していくことが必要であると考えています。

次に、アンケート結果の公表についてはどう考えているのかという御質問でございます。

アンケート結果の公表につきましては、分析を含め、5カ年計画を策定中であり、来年2月11日に開催します第24回差別をなくする三朝町集会においてその結果を公表する予定にしております。

議員皆様も御承知のとおり、本町では平成6年に三朝町部落差別撤廃とあらゆる差別をなくする条例を定め、第2条に、町の責務として、町民の人権意識の高揚に努めること、第3条に、町民の責務として、相互に基本的人権を尊重し合い、部落差別を初めあらゆる差別をなくするための施策に協力するとともに、みずからも差別及び差別を助長する行為をしないよう努めるものとする。また、第5条には、人権啓発活動の充実、第6条には、実態調査の実施が定めてあり、第10次三朝町総合計画においても、人権の尊重の中に目的と方針、現状と課題、施策について明記されております。三朝町人権教育推進協議会総会においては、年度ごとの取り組みについて町民皆さんに周知するとともに、啓発紙「人推協だより」「共に生きる」を全戸配布し、啓発を行っているところでございます。

今年度策定いたします第6次5カ年計画に沿って、人権・同和教育の推進をさらに行うところとしております。議員皆様に初め、町民皆様のさらなる御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。以上、答弁とさせていただきます。

○議長（福田 茂樹君） 藤井議員。

○議員（7番 藤井 克孝君） 今、お聞きいたしました。1番目のアンケートの狙いは何かということについてですけど、三朝町における人権問題について、実態やこれまでの取り組みに対する成果、課題を見るものであれば、今、我が町で人権に係る課題はこういうものがありますと、今後、これこれの施策はさらに推進していきますといったようなことを広く町民に示すべきだと

と思いますが、これについてお伺いいたします。

○議長（福田 茂樹君） 教育長。

○教育長（西田 寛司君） 課題でありますとか推進の方針でありますとか、そういうことを広く町民にお知らせするべきだという御意見で、全くそのとおりでございます。ただいま6次の推進計画を策定し、2月に公表して、それをこれから5年間の町内における人権教育の推進を図ってこうという、その途中でございます。できる限り皆さんにお知らせし、理解していただくよう努めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○議長（福田 茂樹君） 藤井議員。

○議員（7番 藤井 克孝君） 2番目のアンケートは何年ごとに実施しているかということに関してですけど、今さっき答弁がありましたけど、例えば5年ごとにアンケートを同じ内容で実施されているならば、前回と今回の比と成果の課題が見つかってきていると思いますけど、そこら辺をちょっとよろしくお願いいたします。

○議長（福田 茂樹君） 西田教育長。

○教育長（西田 寛司君） 先ほど答弁でも申し上げましたように、ただいまアンケート結果の分析と推進計画の策定中でございます。その公表については、2月のいわゆる町民集会のほうで発表させていただくという準備をしておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

○議長（福田 茂樹君） 藤井議員。

○議員（7番 藤井 克孝君） 3番目の町民の何%を抽出して実施したものかということについてですけど、内部資料としてだけの目的でアンケートをとったとしたら、もったいないことだと自分は思います。広く住民に人権問題を啓発する上で貴重な資料ですから、積極的に活用すべきだと思いますけど、これについてよろしくお願いいたします。

○議長（福田 茂樹君） 藤井議員、先ほど答弁されましたけど、聞いておられませんか。

藤井議員。

○議員（7番 藤井 克孝君） 再度お聞きしたいと思います。

○議長（福田 茂樹君） 西田教育長。

○教育長（西田 寛司君） 先ほども申しましたように、アンケート結果については分析し、2月の町民集会で公表するというようにしておりますので、もうしばらくお待ちいただきたいと思えます。よろしくお願い致します。

○議長（福田 茂樹君） 藤井議員。

○議員（7番 藤井 克孝君） この人権ということは、ほんに数々、多い中で、たくさんあると

思いますけど、2月、その公表するということなら、よろしく願いいたします。

以上で終わります。

○議長（福田 茂樹君） 次に、学校統合に関することについての質問を許します。

藤井克孝議員。

○議員（7番 藤井 克孝君） 学校統合、教育についてお伺いいたします。

町長が選挙前の公約で、小学校の統合はスピード感を持って推進していくと言われました。どのような計画し、どのような方向で進められるのかをお伺いいたします。

1番目、校舎建設に伴う財政面の見通しは。2番目に、2校の校舎をつくる場合、一貫校として校舎をつくる場合の国庫補助金を除いた町の経費はどれくらいかかるものか。3番目に、新校舎の場所、校章、校歌、制服、体操服、ランドセル、通学についてはどのようにお考えなのかお伺いいたします。4番目に、新校舎の完成を契機に学力向上のため保育園、小学校、中学校、保小中連携教育を推進していかれるのか。また、5番目に、何々の町、三朝町があると思いますが、「教育の町、三朝町」というものを宣言したらよいではないかと思えますけど、以上、この5点をお伺いしたいと思います。

○議長（福田 茂樹君） 答弁、松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 藤井克孝議員の学校の統合に関することについての御質問にお答えします。

藤井議員から、小学校統合の進め方について御質問をいただきました。

少子化の進行とともに児童数が減少することで、集団で行う教育活動ができないことが多くあると感じております。そのためにも、早期に小学校を統合しなければならないと考えております。町民が主役の町づくりに向け、教育の分野、小学校統合を進めるにおきましても、所信表明で申し上げました3つの柱、小さくても元気な町づくり、対話と参画行政の推進、町政の見える化、現場主義の徹底を念頭に置きながら政策を進めてまいります。

小学校の統合に伴う財政的な御質問がございました。どのような教育環境が必要なのか、さらに研究をする必要があると考えております。したがって、現時点では具体的なことを御説明することはできません。いずれにいたしましても、できる限りよりよい教育環境の整備に向け努力してまいります。

次に、小学校の統合に向け、幾つかの具体的な項目について御質問をいただきました。

小学校の統合に向けて決めなければならない項目はたくさんございます。小学校を統合するまでに決めなければならないこと、統合後でもよいこと、そして行政が決めること、また学校や地

域が決めることを判断しながら進めてまいりたいと考えております。

学力向上についての連携でございますが、人は活力、子供は宝であります。保育園から中学校までの教育を系統立てて考え、国際化社会への対応、特色ある教育プログラムなどを取り入れ、三朝町の子供たちを育てまいりたいと考えております。

「教育の町、三朝町」の宣言につきましては、町民を初め、広く本町の取り組みをお示しするためには有効であると考えております。現在、教育大綱や三朝町教育ビジョンが策定されておまして、町としての一応の教育方針は示されております。今後、これら既存の教育方針につきましても見直しをしながら、将来に向け、子供たちが目指す教育の姿をお示ししてまいりたいと考えております。「教育の町、三朝町」を宣言することにつきましては、その過程の中であわせて考えてまいります。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（福田 茂樹君） 藤井議員。

○議員（7番 藤井 克孝君） 前町長は、統合、新小学校の校舎について、予算規模として約35億という額を公言しましたが、町長も同じように考えているのか、お伺いしたいと思います。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 所信表明のときにも申し上げましたし、私もこれまでずっと申し上げてきましたけど、まずは学校の統合をどうするかということが大事なことであります。学校整備につきましては、これから町全体の教育の計画、義務教育のあり方等を考える中で検討してこなければならない問題だと思いますので、整備については今のところ考えておりません。以上でございます。

○議長（福田 茂樹君） 藤井議員。

○議員（7番 藤井 克孝君） また、教育委員会はこの8月に統合に関して、義務教育学校も視野に入れて検討すると、リーフレットを全町へ配布しましたが、この方針で進められていかれるのかと、また、教育長は、校章、校歌、通学の3点について、昨年9月議会の答弁で、30年4月の統合に間に合うようになっているとはっきりと言いましたが、町長は、統合についてどこまで準備ができていると認識をお持ちでしょうか、お伺いいたします。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） これまでの経過をもう1回きちっと整理をさせていただいて、考えていきたいと思っております。教育委員会としては当然検討されるべき項目だと思いますので、それはそれで進めていただきたいというふうに思っております。以上です。

○議長（福田 茂樹君） 藤井議員。

藤井議員、もう少しマイクに近づいて。

○議員（7番 藤井 克孝君） なら次に、学力向上に向けて、学校に全てを任せっきりの今の体制でよいのだと思われているのか、また、教育委員会がもっと積極的にかかわって子供たちの学力向上を目指すべきではないかと思いますが、町長はどのように考えておられるのかと、また、ことし9月の議会で、南小学校の1年生が1人であるということ、また、来年の新1年生も1人であるということについて話が出ておりましたが、この学年で1人という状況をどのように考えておられるのか、お伺いいたします。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 教育委員会の今の最初の進め方については、これまでどおり長年の検討の中でいろいろと進められてきた教育委員会の方針の中で進めていただいたらよろしいかと思えます。その中で、教育会議とかで議論することがあればしていきたいと、とにかくどういうふうにしたら三朝町の子供たちを育てていけるかということに主眼を置いて進めてまいりたいと思えます。

南小の件については、児童が1人というのは、この前、南小に行ったときにお聞きしました。それからのことについては私も具体的にお話は聞いておりませんので、きちっとしたお答えは差し控えさせていただきます。以上です。

○議長（福田 茂樹君） 藤井議員。

○議員（7番 藤井 克孝君） 以上で終わります。

○議長（福田 茂樹君） 次に、子育て支援の方向性についての質問を許します。

藤井克孝議員。

○議員（7番 藤井 克孝君） 子育て支援の柱となっている保育についてお尋ねいたします。

現在、三朝町の保育所では、第2子以降については保育料を無料とする方針がとられています。県内の複数の自治体では、第1子から保育料を無料とする施策がとられています。三朝町は今後もこの方針を貫くお考えでしょうか。また、ひとり親家庭への対策をどのように考えておられるのか。こういった家庭へも手厚く行き届いたきめ細かな配慮というものが不可欠と考えますが、町長のお考えを伺うものであります。

1番目に、病児・病後児の保育について、広域の扱いで行われていますが、休日保育も含めて、今は自己負担になっているようですが、町の負担でやるべきではないかと考えますが、町長のお考えを伺います。



2 番目に、現在町営で運営されている 2 つの保育園については堅持していかれるのか。今の体制についてどのようにお考えなのか。

3 番目に、今の保育園の正職員の数、臨時職員の数、保育士と幼児教育の免許を持つ若い職員の雇用が急務だと思いますが、どのように考えておられるのか。

4 番目に、特に町が直接運営に当たっている西小学童クラブについて、手狭だ、料金が高いなどと保護者から不平、不満が聞かれますが、こういったことが解消できる学童保育のできる方に任せる方向で指定管理を考えるべきではないかと考えますが、町長はどのように思われるのか、お伺いいたします。

○議長（福田 茂樹君） 答弁、松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 藤井克孝議員の子育て支援の方向性についての御質問についてお答えします。

まず初めに、保育料の無償化等のあり方についてでございます。

町では、県の中山間地域市町村保育料無償化等モデル事業を早期から活用し、平成 26 年度からは第 3 子以降の無償化を、平成 27 年度から第 2 子無償化を実施してまいりました。国が進める人づくり改革の柱として、3 歳から 5 歳児は保護者の所得状況にかかわらず年次的に順次無償化を進め、ゼロ歳から 2 歳児は住民税非課税世帯等に絞っての保育料の支援策を進める方向で審議がされています。国の動向並びに県内の状況も見ながら無償化を進めてまいりたいと考えております。

また、ひとり親家庭への支援策についてであります。

ひとり親家庭への支援策は、国の手当金のほか、教育支援や生活支援のサービス等を実施しておりますが、今後も家庭環境に応じた支援体制を整えていく必要があると考えております。

また、保育料に関しては、現在でも保護者の所得状況による利用区分の設定を行い、ひとり親世帯へはさらなる配慮もあわせて行っております。

次に、4 つの観点から質問をいただいております。

まず一つに、病児・病後児・休日保育についてでございます。

現在、中部 1 市 4 町で定住自立圏ビジョンのもとに、広域的な施策として、病児・病後児・休日保育の取り組みを行っております。運営費につきましては、それぞれの市町で負担している状況にありますが、利用料については、一部利用者負担をいただいております。病児・病後児・休日保育等は、特別な方の利用になりますので、公共サービス利用にかかわる受益者負担の考え方のもとに、ある程度の利用料の負担をしていただくことも必要であると考えてます。

次に、2つ目、みささこども園と竹田保育園の運営についてでございますが、みささこども園については、保育所と子育て支援センター機能をあわせ持つ子育て支援の拠点施設として、今後とも当面の間、町の責務として引き続き公営で運営を行ってまいりたいと考えております。

竹田保育園については、小規模ならではの特色ある保育を行っており、地域の皆様の支援も大きく、また、家庭的な保育を希望される区域の人からの利用ニーズもあります。引き続き町の責任で運営していくことが適当であると考えております。

次に、3つ目、保育園の保育士の状況についてでございます。

保育園の職員状況は、みささこども園では園長を含め8名、竹田保育園では同じく2名の正規職員が保育に当たっております。不足する保育士については、みささこども園ではパートを含め17名の臨時職員、竹田保育園においては同じく5名の臨時職員で保育に当たっている状況でございます。現在の正規職員はいずれも保育士と幼稚園教員の資格をあわせ持つ職員であります。正規職員の人数は決して十分であるとは言えない状況にあり、臨時職員の方にもクラス担任や障害児担当等の業務分担をお願いしている状況にあります。

全国的にも保育士不足のもと、多様なニーズに対応していくために、保育士の確保は重要な課題であります。今後も、本町の保育の質の低下につながらないように、処遇面の改善を含め、有能な人材の確保、また職員体制の充実に努めてまいりたいと思います。

次に、4つ目です。西小学童クラブについてでございます。

学童クラブのあり方については、ことし1月に実施しました放課後児童健全育成に関するアンケート調査で、利用者の皆さんから施設、運営、利用料金等のさまざまな御意見を頂戴しているところでもあります。利用料金については、中部の他町の状況を考慮しながら、また、東小、南小の各学童クラブにも共通する課題でありますので、学童クラブの受託運営をしていただいております三徳地域協議会及び竹田地域協議会との協議を進めているところでございます。

西小学童クラブの施設及び運営のあり方については、多くの課題があり、一朝一夕に解決できるものではありません。小学校の統合とあわせて新しい放課後学童クラブのあり方を検討していかなければならないと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（福田 茂樹君） 藤井議員。

○議員（7番 藤井 克孝君） 今、答弁をもらった中で、そもそも病児・病後児を上げなければならぬ家庭とはどんな家庭ということを考えると、町内に祖父母がいない、あるいは祖父母の健康状態が思わしくないということが想定される場合、子育てを重要課題と考えるならば、また、

子供の健やかな教育を願うならば、医療費と考え、全面的に私は支援するべきではないかと思えますけど、これについてお答えをお願いします。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 先ほども言いましたとおり、それはそれぞれの家庭の事情もありまして、どういうふうにしたらそういう子供たちが利用しやすい環境をつくってあげるかということがまず一番大事だというふうに思っております。そういう意味で、一方で、公共サービスという目的からすると、若干負担をいただくということも大事だというふうに思っております。こういう状況でいましばらくは支援をしていきたいというふうに思っております。以上でございます。

○議長（福田 茂樹君） 藤井議員。

○議員（7番 藤井 克孝君） 学童保育に関してですけど、三朝町の保育園では2人目以降は無料となっていますが、これは間違いありません……（発言する者あり）学童保育って言ったかな。ちょっと訂正。三朝町の保育園では2人目以降は無料となっていますが、今現在もこれに関しては間違いありませんですね。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 担当の課長から答弁をさせていただきます。

○議長（福田 茂樹君） 新課長。

○子育て健康課長（新 寛君） 現在の保育園における保育料の第2子以降の無償化ということですけども、町長の答弁の中のほうでもお答えさせていただきましたけれども、平成27年度から第2子以降は無償化を実施しております。現在も引き続き行っております。

○議長（福田 茂樹君） 藤井議員。

○議員（7番 藤井 克孝君） 次、学童保育も保育ということで、子育て健康課が管轄していますが、やっぱり学童保育の中でも2人目以降についての料金はどのようになっているのかということをお聞きしたいと思います。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 担当課長のほうから御答弁申し上げます。

○議長（福田 茂樹君） 新課長。

○子育て健康課長（新 寛君） 放課後学童クラブの利用料のことですけども、同時に入所がある場合は2人目の児童につきましては半額減免という形をとっております。

○議長（福田 茂樹君） 藤井議員。

○議員（7番 藤井 克孝君） 次、学童保育の場合において、料金がほかの市町村に比べ高いと

いう声が上がっていますが、聞くところによると、若干値下げが検討されていると聞きましたが、ただ預かりおだけの学童保育から、学習塾で、その機能を持たせることを考えるべきではないかと自分はまた思います。これを実現させるため、専門知識を持つ団体への指定管理を検討するべきではないかと、また、そういう時期に来ているのではないかとと思いますが、これについてどのように考えておられるのかお聞きします。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 今の御質問から聞くところによって私が判断すると、それはちょっと目的が違うんじゃないかなというふうに、別問題ではないかなというふうに思います。

○議長（福田 茂樹君） 藤井議員。

○議員（7番 藤井 克孝君） 町長が言われましたけど、専門知識を持たれる方もやっぱり中に入れて、指定管理とか、そういう方向で考えていくべきではないかと自分は思いますけど、再度この部分についてお聞きしたいと思います。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 議員の言われる専門知識を持つ部分というのは私にはちょっとよくわかんないんですけど、先ほど何か学習塾みたいなことも言われましたし、そういう見方で学童クラブというのを捉えてしまうと、ちょっと違う方向に行くんじゃないかなと。塾は塾、学童は学童というものに立って、学童クラブはあくまでも地域の皆さんが子供たちを育てていくというスタンスでいくのが私は三朝町にとっては一番ふさわしいと思っておりますので、そういうことでいきたいと思います。以上です。

○議長（福田 茂樹君） 藤井議員。

○議員（7番 藤井 克孝君） 以上で終わります。

○議長（福田 茂樹君） 以上で藤井克孝議員の一般質問を終わります。

.....  
○議長（福田 茂樹君） 次に、1番、松原成利議員の冬季における道路積雪対応等についての質問を許します。

松原成利議員。

○議員（1番 松原 成利君） それでは、まず初めに、松浦町長、御就任おめでとうございます。今後4年間の手腕に期待をしております。

早速ですが、質問のほうに入らせていただきます。

ことしの正月過ぎの気象状況は大変に厳しく、中でも平成29年1月下旬から2月中旬にかけ

ての厳しい寒波が到来し、県内全域に大雪警報が発令をされました。本町におきましても豪雪となりましたことは皆さんが御記憶のことと思います。このときは連日冷え込みと降雪に対しまして、除雪能力が間に合わず、幹線道路では路線バスがとまり、三徳・小鹿方面でのバスの運休は3日半近くになりました。さらに、生活道路では、雪かきもままならず、実質的な孤立状態に近い状況に置かれた住民の方々もおられたと記憶をしております。

最近の気象状況は、一説には、地球温暖化による熱源の発達が原因で、次第に平常時と異常時の変化が想定を超えるほど大きくなっているとの見解を示される専門家もおられます。私も、これからの将来は豪雪や豪雨が何十年に1度や百何十年に1度の発生ではなく、毎年でも起こり得るのではないかと心配する一方で、備えあれば憂いなしの言葉のとおり、常に対応策を確認し、住民の皆さんが危険や不安に直面することがないように備えていくことが重要と考えております。

私が現在冬季の問題として考えている点を整理をいたしますと、1点目は、住民の皆さんの安全と安心の確保、2点目は、差し迫って危険な場所等の緊急対応、3点目は、毎年繰り返される生活道路の除雪問題の解決です。

いよいよことしも降雪時期が迫ってまいりましたので、過去の状況分析を踏まえ、来る積雪期には国や県と十分に連携を図っていただき、万全の備えをお願いするものでありますが、この冬、同じ轍を踏まないために、まず初めにお伺いしたいのは、降雪時の初動体制等の基本的な部分で把握されている問題点とその改善策につきまして、具体的に御説明をお願いいたします。

次に、個別の点についてお伺いをいたします。

私の認識では、この豪雪の当時は小、中、高校の多くが早目に臨時休校の判断をされたと記憶しております。これは住民の皆さんの安全と安心の観点からは妥当であったと考えます。その中で、本町の臨時休校判断は、中部管内の他校とは必ずしも横並びではなく、独自に休校をしない判断があったと記憶しております。休校判断におきましては、児童生徒の皆さんの安全が第一で、無理を強いることがないようにと考えますが、教育長はこの点をどのようにお考えか、お伺いをいたします。

次に、雪が降ると差し迫って危険な箇所についてお伺いいたします。

先日の大雨の際、10月の23日に発生いたしました三徳の大門坂の土砂崩れの現場につきましては、現在、駐車場側に仮設道路を設けて通行可能な状況に仮復旧されております。この現場は、仮設道路ですので、急勾配の上に道幅も狭く、融雪装置もない状況にあります。三徳の大門坂につきましては、県道ですので筋違いの質問ではありますが、今期冬の通行の安全をどのように確保されるのか、また、今後の恒久的な復旧計画をどのようにされるのか、お考えをお伺い

たします。

三徳地域は、平成26年3月19日に大山隠岐国立公園に編入されました。以前から三朝東郷湖県立自然公園の特別地域に指定されております。数々の制約を受ける地域であります。もとの状態への復旧は重要な点であることは承知をしておりますが、必ずしも通行の安全とは一致しない面があります。計画を進められる際には、住民本位、観光で来られるお客様本位の観点で、各方面への働きかけ等の調整を図られるようにと考えます。

最後に、毎年繰り返される生活道路等の除雪問題についてお尋ねいたします。

本町内の町道には、雪を捨てる場所がないなどの理由から、除雪車両による対応をしてもらえず、住民の皆さん自身が手作業や歩行型の除雪機を使用する等の何らかの方法で除雪対応しておられる場所がたくさんあります。火災や急病人が出るなどの緊急事態を考えますと、必ず必要なことではありますが、住民の皆さんの高齢化が進んでいる中で、将来にわたって人海戦術で雪かきを実施してもらうことは大変に困難なことと思われまます。

このような箇所には何らかの方法で除雪対策を施す必要があると考えますが、私が最も期待するのは、消雪パイプによる融雪装置の設置です。話が極端かもしれませんが、水源があって消雪パイプが設置できれば、水が流れて雪が積もらないと考えると、それぞれの場所に適した方法で何らかの対応がとれるのではないかと考えます。町道への融雪装置の設置をぜひとも実施できる場所から進めていくようにと考えますが、この点につき、お考えをお伺いいたします。

○議長（福田 茂樹君） 答弁、松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 松原成利議員より、冬季における道路積雪対応等について、3点の御質問をいただきました。

初めに、降雪時の初動体制等の問題とその改善策についての御質問にお答えします。

松原議員の御指摘のとおり、ことしの2回にわたる豪雪により、幹線道路の除雪が追いつかず、長時間にわたる通行どめが発生して、路線バスがとまるなど、住民の生活に支障を来す事態になりました。

このことを受けまして、県では、現在の除雪能力などの調査を行ったところ、除雪を行う業者の不足や除雪オペレーターの不足などの課題が判明し、このことを踏まえて今期の除雪体制が見直しをされました。1つは、市町村との交換除雪及び市町村への除雪委託を行うことにより、効率的な除雪を行うものでございます。2つ目は、広域的な交通と緊急車両等の通行を確保するため、優先的に除雪を行う重点除雪区間を設定するとともに、除雪基準を積雪が5センチから10センチ以上見込まれる場合には出動するよう見直しを行い、円滑な交通を確保することとしてお

ります。また、除雪オペレーターの不足に対応するため、運転資格取得にかかわる支援を行っているところです。さらに、道路交通情報の収集、積雪状況の把握、道路利用者への情報提供として、新たに県内86カ所にライブカメラを増設しております。そのほか、迅速な除雪の応援ができるように、全ての除雪機械にGPSを配備して、除雪機械の位置を把握することとしております。以上の見直しにより、今期の降雪に備えているところでございます。

本町におきましても新規のオペレーターの育成や老朽化した除雪機の更新などを行い、除雪体制を整えて、住民生活に支障がないよう努めてまいります。

次に、三徳山大門坂についての御質問についてお答えします。

議員の御質問について、道路管理者であります鳥取県に確認をしましたところ、当該被災箇所については、先般の台風21号による斜面の土砂崩落に伴い、現道が通行できないため、迂回路を設置して通行していただいているところです。この冬の対応については、鳥取側の消雪の水を迂回路に誘導する。低温時には凍結防止剤の散布を行う。積雪状況等の監視により状況に応じた除雪、排雪の実施を行うなどして通行の安全を確保することとしております。

また、今後の復旧計画については、国の災害復旧事業制度を活用することとして、復旧に当たっては、来年1月の災害査定を経て、文化庁など関係機関との協議や地元関係者との調整が整い次第、早急に現地着手を行い、できれば来年冬までの工事完成を目指すということでございます。

次に、町道への融雪装置の設置についての御質問についてお答えします。

町道の除雪につきましては、現在、除雪路線として133路線、延長52キロを7台の除雪車と16名の職員により作業を行っております。除雪機械の入らない路線については、集落に整備していただいた歩道除雪機等によって除雪をしていただいている状況にあります。

議員御指摘のとおり、集落で除雪をしていただいている町道について、少子化や高齢化により集落で対応するのが困難なところもあるかと思っておりますので、消雪パイプ設置の必要な箇所について、容易に水の確保ができる場所について、そして将来的な管理なども含めて、関係集落と協議を行ってみたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（福田 茂樹君） 答弁、西田教育長。

○教育長（西田 寛司君） 松原成利議員の冬季における道路積雪対応等についての御質問にお答えします。

松原議員から、臨時休校の判断と児童生徒の安全確保について御質問をいただきました。

初めに、臨時休校につきまして、本町の場合は、路線バスの運行状況を見ながら、学校長と教

育長が協議し、判断しております。県内には、警報以上の予報が発表された場合、自動的に臨時休校の措置をとる市町村もございますし、学校長の判断に任せている市町村もございます。一方、核家族化が進み、共稼ぎの家庭が多い中、休校するという事は、子供だけで一日を家で過ごすという状況が生まれます。別な意味で心配するところがございます。子供たちにはどのようにすれば安全に登校できるか、そのすべを学ばせることも大切なことと考えております。

本年の大雪での対応につきましては、路線バスの始発がおくれましたので、始業時間をおくらせるなどの配慮を学校長にとっていただきました。

今後、保護者の皆さんの御理解と御協力をいただきながら、安全な登下校に努めてまいりたいと考えております。議員皆様を初め、地域の皆様にも御協力をいただきながら、子供たちの安全を見守っていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（福田 茂樹君） 松原議員、先にどちらに聞くかをおっしゃってください。

○議員（1番 松原 成利君） 失礼しました。

○議長（福田 茂樹君） いや、今の話です。

松原議員。

○議員（1番 松原 成利君） 大変失礼いたしました。

それでは、個別に伺ってまいりたいと思います。

まず、町長のほうにお伺いをいたしますが、このたびの分析の結果につきまして、こちらのほう、何点か上げていただきました。計画どおりに実施されることが最も重要だと考えておりますので、そこにつきましては、万全の対応をとっていただきますように希望をするところがございますが、私は、豪雪災害となって住民の生活が麻痺する事態ということは、前もって備えておかなければならないだろうと考えております。言いかえますと、災害の対応と防災の対応といいますが、二面で区別をして行うべきだろうと考えておりますが、町長はこの辺につきましてはどういったお考えをお持ちでしょうか。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 非常に判断が難しい問題だとは思いますが、その場その場の状況を見ながらの対応になるかと思いますが、注意を払って、その状況を見きわめながら判断をしていきたいと思っております。

○議長（福田 茂樹君） 松原議員。

○議員（1番 松原 成利君） わかりました。それぞれの判断にということのようですが、私は、



一つの備えといたしまして、これから、先ほども申しましたが、何十年に1度のようなことに備えておく場合に、雪は順番に降るわけではございませんので、一斉にどれだけの人が除雪作業にかかわるかということ考えた場合に、この町内ですとかこの中部圏内の業者さんの力をふだんからかりられるような関係といいますか、何か協力協定のようなものを締結して、そういったことに備えておくべきではないかと思いますが、こういったようなことというのは検討をされていらっしゃるでしょうか。それとか、車両とかいろいろそういったことで借りられる方法もあったりするのではないかと思います。これについて検討をされたことがありますでしょうか。それと、今後検討されることがありますでしょうか。町長にお伺いをいたします。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） これまでもそういう事態を想定をして、各業者さんとは調整をしております。路線についても事前をお願いをしている路線もありまして、過去の教訓を踏まえて、こういう場合はこうだ、ここの路線はこうだということで準備は整えてきております。以上です。

○議長（福田 茂樹君） 松原議員。

○議員（1番 松原 成利君） わかりました。

それでは、ことしの冬が特別だったということではなく、今後につきましても十分な備えをお願いをするとうたしまして、本件につきましては終わりにさせていただきます。

次に、教育長のほうにお伺いをいたしますが、先ほどの答弁の中で、保護者の方が家に子供さんが一人残られると困られるといった旨の答弁をなさったと思いますが、この点につきましては、学校側が考慮すべきものではないと私は考えます。逆に、例えばですが、学童保育のほうに急遽お願いをするとか、そういったことで、できるだけ近いところといいますか、外に出させるよりはというふうに、私はより安全だと考えますが、今現在、保護者さんの在宅、不在宅によって、そのことは休校の判断に入っておりますでしょうか。お伺いをいたします。

○議長（福田 茂樹君） 西田教育長。

○教育長（西田 寛司君） 保護者が家庭に一日いらっしゃるか、いらっしゃらないかが休校の判断かと、基準になるかという御質問ですが、その点は今現在は考慮しておりません。ただ、休校せずに学校を開校しますよという御連絡を差し上げた際、子供はいつ学校に行くかということで、先般の大雪の際には通勤で6時ごろ家を出ると、そうすると、6時半には預けたいというようなお話をいただいて、学校のほうで、6時半ごろに学校に来ていただいて対応していただいたという事例もあります。家庭の不在ということを基準にはしておりません。

○議長（福田 茂樹君） 松原議員。

○議員（1番 松原 成利君） 保護者の皆さんがおられる、おられんということは基準には入っていないということで、もしそういったことを考える必要があるようでしたら、先ほども申し上げましたように、学童保育なり、ほかの手段で何らかの方法を考えていただきたいと思いますが、この件につきましても、現在の判断基準でそれではよしと、私も大体妥当かなと考えますので、進めていただきたいと思います。

次に、大門坂の先ほどの復旧の件でございますが、町長にお伺いをいたします。

緊急の対策というのは、今お話がありましたように、融雪の水を誘導するなり除雪なりということではよろしいかと思いますが、今後、来年に向けての本格的な復旧につきましては、土地柄ということでもいろいろありますが、制約の中でもやはり住民として住んでいらっしゃる方を一番に考えていただきたいと私は考えますが、町長、この点についてはお考えはいかがでしょうか。お伺いをいたします。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 議員が言われますとおりとても重要なことだと思っておりますので、住民の生活に関することについてはきちっと対応するべきだと思っております。

○議長（福田 茂樹君） 松原議員。

○議員（1番 松原 成利君） 私の意見とも一致をしておりますので、ぜひ住民の皆さんの声をしっかり聞いていただいて、国なり県なりのほうにその旨十分に伝えていただいて、よりよい道路が復旧されるように努力をお願いいたします。この件につきましてはこれで終わりとさせていただきます。

続きまして、最後ですが、融雪装置の設置についての答弁、お聞きいたしまして、今後、できる箇所から取り組んでいただけるというふうに私は判断をいたしました。今現在、計画をされていらっしゃるというのは、実際に計画を進めておられるところ、ありますでしょうか。町長にお伺いをいたします。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 現在のところそういった計画はございません。これからそういう必要性のある場所等がありましたら、その都度現状調査をしてみたいと思います。

○議長（福田 茂樹君） 松原議員。

○議員（1番 松原 成利君） 区長会の文書をごらんになっていると思いますが、既にもう何年も前からお願いを、区長会のほうの地域活性化なり地域振興の面からお願いということで出ているところ等があります。現地のほうでは何年同じ話をしても結果は毎年同じだと、歩行型の除雪

機で対応してください、この答えしか返ってこないというふうにいろいろ聞いておりました、今までそういったことで対応してきたわけですが、これからはつきましては、そのことがだんだんとできない状況になってくることは明らかですので、それにはつきましては、早急に調査なりを進めていただきたいと思いますと思いますが、進めていかれる上で何か障害になるものというのは、今、お考えの中で何かがありますでしょうか。お伺いをいたします。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 集落要望の中で出てきているが、継続になったり処理をされてないということが言われましたけど、前町長はそういうことに関しては非常に熱心にやっておられたので、多分その場所が工法的にいろんな課題があってできないだとか、そういう課題があって進んでないんだというふうに思っております。そういうことは多分集落の方にはその都度御説明をしてきておると思いますが、もう一つの課題としては、経費的に多額の経費がかかって、それで補助事業に乗せなければできないというふうな事情もあるかと思えます。今回の集落要望の中で、私もずっと目を通してみましたが、特に新しいところもなかったものですから、新規でここをしてくれ、消雪パイプが必要だというところの要望は見当たらなかったものですから、もしかしたら見落としもあるかもわかりませんが、そういうところはもう一度現場をしっかりと見て、その状況、それから水がとれるか、それから周辺の皆さんに迷惑がかからないか、総合的に判断をする必要がありますし、集落の方がきちっと維持管理をしていただけるかというふうなこともありますので、改めてそういう場所が必要でしたら検討していきたいと思えます。

○議長（福田 茂樹君） 松原議員。

○議員（1番 松原 成利君） 今のお話の中で、資金面という新たな問題も、技術面、資金面と両方のことがあるというふうに理解はいたしますが、本格的な大型のというようなことは逆に必要ないだろうと私は判断をしております。道路の脇に、例えばですが、パイプを設置をして、そこから水を吹く程度のことで十分には事足りのではないかと考えておりますので、その資金面ということから考えますと、そういった補助金等を、それはそれを探して対応していただければ一番よいわけですが、もっと小さな規模で考えていただいて、町の予算レベルで何とか対応ができるような方法で検討を進めていただくと、私は一番いいと、すぐすぐそれでしたらかかれるのではないかとと思えますが、町長、いかがでしょうか。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） それはケース・バイ・ケース、その場所によることで判断をしていくべきだというふうに思っております。私はその場所を想定せずに一般的なことでお話をしましたの

で、議員さんはどこか思いの中でそういうところがあってそういうお話をされてもしおられたら、その物事の私の答弁が合わないかもわかりませんが、仮にそういうコンパクトな、小さい簡単なことのできる場所がありましたら、町が材料費を提供するということもあります。一番よく知っておられる集落の方が村の作業のできる範囲だったらそれをしていただくのが一番その場所にとっても、それから処理をする、早くできることにもなりますので、そういう場所があったらそういうことも検討していただけたらと思います。以上です。

○議長（福田 茂樹君） 松原議員。

○議員（1番 松原 成利君） 恐らく今残っているところというのは幹線のような大きなところではなく、先ほども初めに申し上げましたが、除雪用の小さな車両でも入っていかないというようなところが残っているんだろうと思います。ここというところはちょっと差し控えたいと思いますが。そういったことで、山のほう側に行きますと、そういった場所については、今の町長のお考えのような形で進めていただければ十分に実現可能だと思いますので、私はこの点をまた今後も確認をさせていただくということでお願いといたしますか、希望を持ちまして、今回、そのような方向でぜひとも進めていっていただきますように希望するところで、今回の質問を終わりとさせていただきます。ありがとうございました。

○議長（福田 茂樹君） 以上で松原成利議員の一般質問を終わります。

○議長（福田 茂樹君） しばらく休憩いたします。再開を11時20分といたします。

午前11時12分休憩

午前11時20分再開

○議長（福田 茂樹君） それでは、再開いたします。

次に、3番、石田恭二議員のこれからの町づくりとはの質問を許します。

石田恭二議員。

○議員（3番 石田 恭二君） これからの町づくりとは。

「さあ、町づくり再出発、もっと元気で素敵なまちに」。「停滞」と「改革」は、あなたはどちらがいいですか。町長が選挙公報、討議資料で町民に問いかけられていた言葉です。果たして今までの町政は停滞していたでしょうか。主産業である観光振興では、全国的にも誇れる日本遺産登録、三徳山国立公園指定、旧中部ダム建設中止に伴う地域再建、ウラン残土加工資源の受け入れ、岡山大学医療センター存続など長期にわたる問題解決、中部地震復興対策などと、町は停

滞どころか振興してきています。日本全体の問題として、少子高齢化による家族の限界が住民一人一人の町運営に対する意欲の低下が個人意思を強くし、町運営に関与しなくなっていることが停滞しているように感じるのではないのでしょうか。

改革も必要ですけど、守りながら維持していくことも必要だと思います。

そこで、町長にお伺いします。選挙公報に上げられていた町政の見える化、教育、子育て政策、地域振興対策、経済振興対策が抽象的です。できれば町長が今考えている構想の中で具体的な内容があればお聞きしたいと思います。

提案として、早期に取り組むべき問題として、若い世代をどう支えていくべきかと思います。これからの三朝町の柱となる町内の若者、20代から40代に定住してもらうための対策を重点とし、政策を考えるべきだと思います。高校までの子育て政策はある程度充実はしていますが、就職、大学等進学による支援策がありません。若い人たちが定住して、安定し、安心できる生活の支援策が必要だと思いますし、まずは町内を充実させていけば、移住者もふえると思います。そうすれば、企業、農業の経済活動振興も進んでいくと思いますが、町長の御意見をお伺いします。

○議長（福田 茂樹君） 答弁、松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 石田恭二議員のこれからの町づくりとはの御質問にお答えします。

私は、これまでの活動の中で、スローガンとして「さあ、町づくり再出発、もっと元気で素敵なまちに」を掲げ、小さくても元気な町、対話と参画行政の推進、町政の見える化と現場主義の徹底を政策の柱に位置づけております。

議員御指摘のとおり、これまでの町政では、さまざまな課題が解決され、その実績は全国的にも注目されるなど、成果につきまして、私も高く評価しております。

一方、こちら議員が指摘をされておりますが、町の人口が減少し、高齢化社会が進行する中であって、町民の心の中に、町に元気がない、このままで大丈夫かといった町の将来を心配する気持ちが大きくなってきており、町づくりに対し消極的な町民の方もいらっしゃるものと感じております。私が停滞していると表現いたしましたのは、まさにこの状況であります。

先人が育てこられた三朝町の魅力を一層磨き上げ、町民と行政が共通認識のもとに、それぞれの立場でその役割を果たさなければなりません。そのためには、いま一度体制を再構築し、風通しのよい環境の中で、みんなで知恵を出し合い、ともに汗をかきながら取り組んでいきたいと、そう思っております。

改革という言葉を使いましたが、これから小さくても元気な三朝町を守り、発展させていくた

めには、このように従来にも増して町民と行政の連携が必要であり、そのために新しい意識で未来に向けてチャレンジしていきたいと考えております。

私はこのように考えておりました、石田議員から選挙公報に掲げた4つの政策の具体的な内容についてお尋ねをいただきました。

まず、町政の見える化についてでございます。

これは、町民が参加する、町民が主役の町づくりを進める上で必要となる情報を示していこうとするもので、情報を公開することで、町民の目線を意識しながら、行政サービスや行政改革を進めていきたいと考えております。町が何をして、どういうふうになっているのか。それに対して町民はどう思っているのか。私がこれまでの4年間にそういうふうにして、町の人とそういう話をしてきて実感したことでございます。そういうことをしっかりと共有しながら話し合っていきたいと思っております。

次に、教育、子育て政策についてでございます。

これにつきましては、まず、政策の柱となります教育の町みさきビジョンを策定いたします。これは、町の教育を保育から中学校までの全体で捉えて組み立てるものと考えておりました、学校教育に加えて社会教育や地域との連携も含めた総合的なものにしていきたいと思っております。

小学校の統合問題につきましては、ビジョンの全体的方針の中で整理をし、三朝町における義務教育環境のあるべき姿を示しながら、取り組むべき方向を提案、決定してまいります。

保育料の無償化や学童保育の充実につきましても、このビジョンの中で関連づけることにより、子育て世代の皆様にとってもわかりやすいものになりたいと思っております。

次に、地域振興対策についてでございます。

町民参加、町民主体の町づくりを進めるためには、地域の推進体制を強化し、元気な地域協議会をつくっていく必要があります。現在の地域協議会は、設立後10年が経過しております。こちらでいま一度その役割と運営方法について考えてみたいと思っております。

地域での見守りや子育て支援、災害時の自主防災や生涯学習への取り組みなど、地域が主体的に取り組む体制になって改めて研究してみたいと思っております。

最後になりましたが、経済振興政策についてでございます。

ここでは、三朝の魅力再生プロジェクトを立ち上げたいと考えます。三朝町の持つ魅力を再発見し、それを生かしてこだわりと継続性を持って粘り強く三朝温泉のある三朝町の町づくりに取り組んでまいります。

まずは温泉ですが、これまで取り組んできた現代湯治をさらに磨き、ラドン温泉の健康効果を

前面に出し、温泉療法が新たな観光商品として定着するような取り組みも考えてみたいと思います。観光に携わる皆さんにどんどんかかわっていただき、魅力ある観光商品につくり上げていきたいと思います。

また、農業につきましては、農地を守る観点から、優良農地に絞り、担い手の農家に集約をしながら、米や神倉大豆を基幹作物とする生産体制の育成を支援するとともに、果樹や畜産農家などと連携した地域連携型の営農体制を目指してまいります。

森林、林業につきましては、豊かな森林資源に恵まれた本町ではありますが、その利用は十分でなく、未利用資源の活用が課題となっております。鳥取県中部森林組合とも連携し、木質バイオマスの導入など、新しい事業に向け研究してまいります。

経済の振興は、三朝温泉を中心とする観光振興が柱となりますが、三朝温泉を訪れる方をもてなすため、食や自然、風景を良好に保つためには農林業の発展は必要不可欠であり、連携して振興していかなければなりません。この部門におきましては、特に人材育成や経営支援が必要と考え、挑戦する若者や行動する女性、革新的な事業者に対し支援をしていきたいと考えます。

これらの政策を柱に、新たな町づくりに挑戦してまいります。

次に、早期に取り組むべき問題として、特に若い世代をどう支えていくべきか、若者の定住に向けた対策が急務であるとの御提案をいただきました。私も同じ気持ちであります。日本全体の人口が減少していく中で、本町だけが人口増加に転じていくことは容易ではありませんが、議員御提案のように、総合的な観点で目標を定めた施策として整理をしていくながら、本町の若者が学業等の理由で一旦は町外、県外に出られたとしても、ふるさとに戻りたいと思っていただくような町づくりやふるさとに戻りやすい仕組みづくりに加え、出身者でなくても居住地として若い世代に選ばれるような町づくりを目指していかなければならないと考えております。

人口減少の問題は総合対策だと思っております。現在三朝町が行っているさまざまな分野の政策を再確認していくながら、保育料の無償化や通学費の助成、医療費の助成を初め、町の将来を担っていく子供たちを育てていく施策を効果的に連携あるいは強化させていくことによって、若い世代にさらに魅力ある町にしていきたいと思っております。

また、御指摘の就職、大学等進学による支援策につきましては、生活圏域となる中部定住自立圏での連携をさらに強めていくなど、若者に魅力ある就業機会の提供に努めていくほか、若者の起業に対する支援や経営支援を進めていくことによって、経済活動や地域活動の活性化に向けたことを考えます。

これら総合的な視点で将来を見据え生活していくことのできる町、暮らしやすい町づくりを目

指していきたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（福田 茂樹君） 石田議員。

○議員（3番 石田 恭二君） 停滞と改革という言葉が出てきた段階で、どうしても今までの行政のあり方がとまっているんじゃないかというふうに感じている人もいましたので、今回お聞きしたところなんです。それで、改革より今現在の三朝町を守ることが本当に必要ではないかということで、今回の質問をさせていただいたんです。今までも結局、吉田前町長の前からあった健康むらとか、プランナール、美術館等の再整備、運営、それなりに成功はしてきたと思いますし、町長も37年間行政に携わってこられてますし、ここの執行部の人、町の職員の方皆さんがこういうものに全部取り組んで今の三朝町があると思われましたので、今回、こういう形で質問をさせていただきました。その辺について、町長が37年間おられたときはどのようにお考えだったのか、ちょっとお聞きしたいんですけど。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 私も37年間役場におりまして、先ほど議員が言われました一つの例の中で、国立公園の問題だとか、ウラン残土だとか、医療センターの問題だとか、一緒に職員として仕事をしてきました。私は、これまでの町政も攻めだと思っておりまして、守りだとは思ってません。そういう気持ちで仕事をしたことは一切ございません。だからいろんな課題ができたときに一緒になって解決を図って行って、それが結果として成果につながってきたと思ってます。だから私は今もその延長線上で、新たに、守りというのは逆に停滞をすることになるので、それはみんなが前を向いて、どういうふうにしたらこれがよくなるかという、その姿勢を持って町政に臨まないと、逆に知らないうちに停滞をしていくというふうに思っております。ですから、今までの経過を踏まえて、今まで以上に新しい町をつくるために前進をしていくという思いでおります。

ただ、停滞とか改革とかいったときには、町民の目線で見るときに、どういうふうにしてもそれが長く続くと、当たり前なのが当たり前で見えなくなって、停滞みたいなイメージがあると。それと改革については皆さんが前を向いて新しい町をつくりましょうやという、そういう一つのアピールで申し上げたことであって、これまでの町政を批判をしたものではないというのは御理解をいただきたいと思います。常に職員が前を向いて新しいことにチャレンジをすることが結果的には町民のためにもなりますし、町が発展する。そして三朝町が鳥取県の中中部や県の中での役割を示していくとても大切な心構えだと思っておりますので、御理解をいただきたい



と思います。

○議長（福田 茂樹君） 石田議員。

○議員（3番 石田 恭二君） よくわかりました。今までの経験を踏まえて、これからトップとしてしっかりした政策をつくっていただきたいと思います。

それでは、質問の中に、町政の見える化、情報公開と予算の執行の決定など、町民に示していかなくちゃいけないと言われました。今でも議会などの傍聴、議会での委員会の傍聴にしても、全部できるわけなんですね。ところが、今、傍聴に来られる方の人数、かなり少ない状態。テレビで放映はされますが、やっぱり現場とテレビでは全く違う。その辺のところをやっているんですけど集まらない。これを、町長、どうお考えでしょうか。どうしたらいいのか。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 確認はしてもいいですか。

○議長（福田 茂樹君） 確認はしてもいい。

○町長（松浦 弘幸君） 集まらないというのは何が、傍聴に来られない……。

○議員（3番 石田 恭二君） 傍聴に来られないということです。

○町長（松浦 弘幸君） それは私に聞かれてもなかなか難しい問題ではありますけど、ただ、私たちは、さっきのことにしても関連するかもわからないですけど、役場におるときは、みんな役場の仕事が町の人に伝わっておるんだらうと思ってました。だけど逆に離れてみると、割と情報が届いてない。だけ、町報であったり、今の議会のきょうみたいな放送であったり、防災無線であったり、チラシであったり、やっているんですけど、知りたいことというのは町民それぞれ思いが違うわけですけど、もう少しホームページにしてでもやろうとすること、やったことをつづきに載せるだとか、いろんな手だてがあるのかなというふうに思います。そういうことを今ちょっと指示をしていますが、どういうふうにしたらもう少しお金のかからないような形で町の人に伝えることができるか、情報発信ができるか、こういった議会のことも含めて検討を始めているところです。以上でございます。

○議長（福田 茂樹君） 石田議員。

○議員（3番 石田 恭二君） わかりました。

そういう中で、自分としての提案なんですけど、町内企業、町外から仕事に来ている方々、いらっしゃいますよね。そういう人たちの意見を聞くということが今後は必要ではないかと思います。結局、町内で過ごす時間は、8時間なら8時間勤務されている中で、町内の動きという、町外の人を感じるものがあると思うんですね。そういう機会があってもいいのではないかと。確か

に商工会とか、観光協会とか、そういう団体があって、いろんな事業主が語り合う場というのはありますけど、そこで働いている方々がどう三朝町を見ているかというものを聞く場をぜひつくっていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） とても大事なことだと思ひまして、昔は何か企業訪問みたいなことをやっていた覚えがあります。この前もちょっと時間がありましたので、ある町内の工場というか事業所さんにお伺いをしまして、いろいろとお話をしといたら、私が昔訪問したときと今の業態というか事業内容が変わってまして、そういう面ではそういう情報交換は必要だなというふうに思ひました。

これから私と、それから職員も含めて、そういう町内の事業所だとか、そういうところへ出かけて行って、トップの方とか、そういう方ではなしに、広く意見交換をしたり、事業を見させてもらえたらと思ひております。

○議長（福田 茂樹君） 石田議員。

○議員（3番 石田 恭二君） このことを言ったのは、他の地方で、町内に勤務されている方々に第2の住民票を交付しているというところがあるわけですね。それで意見を求めるというやり方をやっているところがありますので、ぜひ考えていただきたいと思ひます。

それから、地域振興策で、地域協議会をもっと充実させて、連携を深めていくということでしたけど、この地域協議会の中で、集落の人口と生活環境の格差がかなり違ってきてます。その辺、本当に考え直さなきゃいけないと思ひんですが、本当少人数の集落と物すごい人数の集落が同じ地域協議会の中にあっても、意見の集約というのはなかなかできないと思ひますね。その辺の徹底をしていただきたいと思ひんですが、町長はどのようにお考えでしょうか。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） そういう状況で、大事なことだと思ひます。当初、地域協議会をつくった経過が、三朝町が単独で存続をしていく中で、地域の力をつけていこうということで、各地域にどういった形での協議会をつくるかということで、今の形になっております。ただ、10数年経過をして、先ほど言われましたように、集落の状況も変わってきましたし、それから、地域協議会の中でもいろんな課題が出てきております。もう1回体制を見直しをしたらどうかだとか、そういうこともございます。それから、集落が大きい、小さいは余り関係ないと思ひますが、大きいからそれが強いだとかしっかりしているだとかじゃなくて、人口が小さいところでもそれなりにしっかりやっておられる村もありますので、そういうところがいろいろと連携をして

いけばいいかというふうに思ってます。以前に鳥大の先生がそういう集落の力みたいなところで調査をされたことがあります。自主でやれるのか、それとも支え合わないとその集落が体制がもたないとか、そういうふうな調査をされたことがありますので、もう1回そういうことも踏まえて、地域の皆さんとことしは考えていただく年、それから、一つの方向をつくっていただく年に……。済みません。来年はですね、そういう年にしたいというふうに考えておりますので、そういうことで取り組んでいきたいと思えます。

○議長（福田 茂樹君） 石田議員。

○議員（3番 石田 恭二君） ぜひ積極的に取り組んでいただきたいと思えます。

そこで、地域振興対策等を含めて、教育、子育てのことで、町長、先ほど、今までの所信表明でも言われてました。早期に小学校統合問題、そういう問題をしなきゃいけない。1点だけお聞きしたいんですけど、ぜひ南小学校、やはり4月から西小学校に持って行っていただきたい。これは竹田地区公民館等の会合なんかでも、住む人がいなくなるよと言われてました。前町長のときですけど。このまんまではもう維持はできないと言われてました。そのこのところはとにかくスピーディーというか、超スピーディーで考えていただきたいと思えますけど、いかがでしょうか。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 時期は限定できませんけど、いろんなかかわりがありますので、ただ、思いは一緒でございます。石田議員もそういうふうにして、三朝地域でありながら、町全体のそういう子供たちの姿を非常によく見ておられて、その地域の課題というのを捉えていただいております、非常に感謝するところであります。そういう方向に向かって統合については進めたいというふうに思えますので、また御指導なり御意見なり、それからいろんなことにかかわっていただければありがたいと思えます。そういう方向で前に向いて進めて、教育委員会と一緒にやってやりたいと思えますので、よろしくをお願いします。

○議長（福田 茂樹君） 石田議員。

○議員（3番 石田 恭二君） ぜひよろしくをお願いします。

それでは、経済振興対策のことについてなんですけど、今、町外とか、世界的にと言ったら大げさかもしれませんが、宣伝等はそれなりに、三朝温泉なり、そういうものは十分されてきていると思えます。ただ、先ほどから言っているように、地域の人のかかわりが少なくなっている。それを考えれば、町内の人にもう一度、主産業である観光にやはりかかわってもらおうということが先決だと思いますけど、いかがでしょうか。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） とても大事なことだと思います。人に動いてもらわないことにはどうしようもないことでありまして、その動きを私たちが支援をしていったり、協力をしていったり、そういうかかわりでないと成長はしないというふうに思います。努力をしてまいりますので、一緒になって地域の盛り上げについて御協力願えればと思います。以上です。

○議長（福田 茂樹君） 石田議員。

○議員（3番 石田 恭二君） ぜひ考えていただきたいですし、やっぱり町内の人が三朝温泉のお風呂に入れなければ、こちらから出向いていく。県外等、災害のときとか、姉妹提携結んでいるところなんかには温泉なんか持っていったりしてますけど、町内ではそういうことはありません。余り聞きませんし。そういうふうに来れない人、車がない人に対しての配慮をしていくことによって、やっぱりそういう観光産業を充実させることが必要だと思います。内部でね。それが必要だと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

それと、経済対策の中で、農業とのかかわりで、今現在、数軒の旅館が三朝米を使ってPR活動に関与されてますけど、やはりそこを、神倉大豆も含めて、旅館さんに毎日平均で1,000人泊まっておられるという数も出てます。そういう人たちにPRするためには、それを徹底的にやるべきだと思います。外にPRするより、中で十分できるはずなので、それを継続して、もっと充実させることを考えていただきたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） そうです。神倉大豆はもっともっと振興していかなければならないと思っ  
てまして、JAさんと話をしてみたいと思っ  
てます。

○議長（福田 茂樹君） 石田議員。

○議員（3番 石田 恭二君） 次に、若い世代をどう支えていくべきかということです。これは、今までも一般質問で奨学金の助成制度とか、そういうことは今まで言ってきましたけど、なかなか思うようには行ってません。

今、鳥取県で未来人材育成奨学金というのがあるみたいです。これは年間180名ですか、全国で初めてこういう制度をつくったと。そのかわり条件が日本学生機構などの無利子、有利子の方が基本的には対象になってますけど、そこで助成が出る。条件としては、8年間、県内で就職、定住しなければという条件がついてます。これに関しては、素晴らしいことなんですけど、ただ、これは短大、大学等の方が対象になります。大学院もありますけど。高校を卒業して就職する人の手助けというものはありません。企業の手助けは今ありますけど、採用の手助けはありますけど、就職されて定住される方々についてはないんですね。就職するにしても通勤するにしても車

1台必ず要るでしょうし、今のこういう交通網でしたら、そういう対策というものは考えておられませんでしょうか。お聞きしたいと思います。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 奨学金にしても、こういう就職した方の定住支援というのはなかなか難しいことだと思っております。町単独でやるというのはちょっと無理があるかなというふうに思いますが、これまでまず多分、就職をどういうふうにしたらできるか、職につくことができるかというのが、失業率が高かったり、新規卒業者の枠が少なかったりしてきたものですから、そういうところを重点に置いて制度がつくられてきたというふうに思っております。今、どういうふうになるかわかりませんが、国のほうで人づくり革命だとか、生産性革命だとか、話が起こってきておりますので、その中で、人口減少の問題とか含めてくる中で、そういった動きが出れば、いろいろと情報を集めて応用してくるのはありかなと思うんですけど、今の段階ではそれがすぐ手がつけれるというふうなことではないと、町独自としてはできないというふうに思っております。ただ、勉強だけはしていきたいと思っております。

○議長（福田 茂樹君） 石田議員。

○議員（3番 石田 恭二君） ぜひ考えていただきたいと思うんです。これは定住のためには、やはり新規という言葉が大きいですね。再就職する方もいらっしゃいます。そういう人たちを支援する、定住させるためにはそれが必要だと思うんです。特に、町外から移住者を求めるんじゃなくて、町内の人を出すことをしないための政策が必要だと思うんです。とにかく定住してもらおう。移住者のことよりも町内の若者たちを大切にしていきたいと思っております。

それで、最後にしますけど、今の自治体の大半は人口対策で、少子高齢化を何とかしようということで生き残りを図っておりますけど、ほとんどが足の引っ張り合い。都市部でも大都市近郊のベッドタウンがちょっと有効な子育て政策をしていくと人口がふえていく。そのかわり財源確保に翻弄されてますけど。そういう中で、やっぱり足の引っ張り合いをしてても実際の未来にはつながらないですし、従来の住んでいる人の概念をとにかく見直して、町内外からの意見の集約をして、知恵を絞りながら、とにかく新しい町政を考えていっていただきたいと思うんです。そうしないと持続していかないと思うんですね、今の状態では。とにかく足の引っ張り合いをします。そのためにいろんな政策をされるのであれば、どんどん議論をしながら、お互いに政策を言い合いながらすることは、協力は惜しみませんので、どんどん考えていっていただきたいと思っております。

以上で終わりたいと思っております。

○議長（福田 茂樹君） 答弁は。

○議員（3番 石田 恭二君） お願いできたら。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） そういうスタイルでやっていきたいと思います。

○議長（福田 茂樹君） 以上で石田恭二議員の一般質問を終わります。

.....

○議長（福田 茂樹君） しばらく休憩いたします。再開を1時20分といたします。

午前11時58分休憩

.....

午後 1時18分再開

○議長（福田 茂樹君） それでは、再開いたします。

次に、5番、山口博議員の三朝町の持続的観光戦略についての質問を許します。

山口博議員。

○議員（5番 山口 博君） それでは、松浦町長に三朝町の持続的観光戦略について質問させていただきます。

三朝町はこれまで以上に元気な町として、他市町と合併しないでやっていくためには、基幹産業である観光業と農林業の活性化が絶対条件と考えます。三朝温泉の観光業を見るとき、かつての大量時代から個人規模の多様な旅行形態へ移行し、その結果として厳しい経営環境に置かれ、大手の旅館が次々県外資本の傘下になるなど、大きな時代の流れを経験してきました。

出雲大社の式年遷宮、三徳山・三朝温泉の日本遺産登録などの効果で入り客が30万人を超える状況が続いていますが、この状況は、ある面、一過性の危険性を秘めていると考えるべきではないでしょうか。いつまでもこれにすぎることなく、新たな発想の観光資源の創出が必要と私は考えます。

町長は、選挙公報で、三朝の魅力再生プロジェクトとして、三朝温泉の立て直しと町の観光力増強を提言しておられますが、三朝温泉、三朝町の観光面の現状をどのように分析、評価していただけるのかお伺いします。

他県の元気な温泉地、観光地の例を見るとき、強力なリーダーの存在があり、頑張る組織の存在があります。三朝町、三朝温泉の封鎖的な現状を打破するためには、既存の組織重視の姿勢を改め、有能な外部人材の登用等で強力な観光組織の構築が不可欠と考えます。

私はかつて一般質問で、観光三団体、旅館組合、観光協会、商工会や農林業関係者など多様な

構成員を擁する三朝版DMO（観光地域推進組織）の設置を提言しました。答弁では、現行の観光三団体に頑張ってもらおうとのことで、残念ながら大きな動きがないまま今日に至っています。この際、三朝町の観光施策立案に携わった町長が強力なリーダーシップを発揮して、三朝町の観光戦略の大改革を断行し、町内みんなが参画する全町観光地化で多様な観光メニューをつくり、例えば農林業の体験ツアーであったり、豊富な自然を利用した林道ウォーキングなど、観光業も農林業もみんなが潤う観光立町を進めるべきと考えますが、町長の観光業、農林業に対する思い、見解をお伺いします。

○議長（福田 茂樹君） 答弁、松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 山口博議員の三朝町の持続的観光戦略についての御質問にお答えします。

まず、三朝温泉、三朝町の観光面の現状をどのように分析、評価しているのかについてですが、議員御指摘のように、近年では、日本遺産の認定など話題性や国や県の支援もあり、集客力の向上につながってきたところではありますが、一方では、昨年秋の地震や年明けの豪雪など、環境の変化に影響されるという観光の弱さの一面を改めて痛感させられたという思いであります。

観光の動向を考えますとき、国内旅行は横ばいか少し下降ぎみの推移となっておりますが、人口減少が懸念される中、インバウンドによる集客効果は若干期待されるものの、今後、観光業界は観光客の奪い合いになることが予想され、これまでの路線そのままでは立ち行かなくなることが一般的に想定されています。

このことから、私は、温故知新、もう一度三朝温泉の魅力を再認識し、情報発信していかなければならないと考えています。具体的には、これまでも言われておりましたが、健康温泉リゾートを目指していきたいと考えております。その方策といたしましては、「人づくり」「町づくり」「温泉」をキーワードとしながら、三朝温泉を盛り上げていきます。

1点目の人づくりにつきましては、観光に携わる皆さんにどんどん活躍していただくよう、アクションを起こしていただくことができるような仕組みを強化していかなければならないと考えます。

2点目の町づくりでは、三朝温泉の地域は住民にとっては快適に暮らしていくことができる地域でなければならず、そこを訪れていただく観光客にとっては、魅力ある地域でなければならぬという二面性があります。このことを基本に、こだわりと持続性を持って粘り強く快適な町づくりに取り組んでいきたいと思っております。

そして、3点目の温泉につきましては、全国的に健康志向が高まる中で、これまで三朝温泉が

取り組んできた現代湯治にさらに磨きをかけ、ラドン温泉の健康効果のアピールが必要であると考えます。これには、現在使えなくなっております熱気浴施設の再開に向けた努力や、三朝温泉病院にも協力をいただきながら、温泉と医療をテーマとした取り組みを進め、観光地としての魅力向上とここにしかできない地域限定の魅力を創出していきたいと思います。

次に、三朝版DMOの設置など観光戦略の改革に向けた御提言や、観光、農林業に対する思いについて御質問をいただきました。

観光産業の発展によって町全体が発展していくためには、御提言のように、私も、観光関係者だけでなく、農林業や地域協議会の皆さんなど、これまで以上に連携を強めていかなければならないと考えています。

なお、観光業、農林業につきましては、申し上げるまでもなく、町の主要産業であります。観光客の皆さんの近年のニーズは、地元ならではのおいしいものが食べたいという志向が強くなってきていますので、農業を振興し、農林産物を地元の食材として提供していただくなど、連携を強化していくことによって、町全体の活力を増していくことができる関係に結びつけていくことが理想であると考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（福田 茂樹君） 山口議員。

○議員（5番 山口 博君） 今の答弁の中で、人づくりという言葉が使われましたが、これは、私、町長が公約等で掲げておられます三朝温泉の立て直し、あるいは観光力の増強の部分に重なるだろうと思いますが、どのような人材を観光関係については育てたいと考えておられるのかお聞かせください。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） まずは、今、三朝温泉の中と申しますか、いろいろと事業を行っておられる方も含めてですけど、若い方でとても元気のある人が育ってきていると思います。ただ、若干もう少し、昔のしがらみとか、そういうことがあったりして、その活動とか個人のそういった頑張りが表に出てきていないという面がありますので、まずそこを若い人皆さんが、そういう皆さんがいろんな議論を深めていく形をつくっていただいたり、行動をしていただく形をつくっていただいたり、その中で人材、まとまった形での人材育成とか活動に伸ばしていきたいと思えます。一方で、外部の力というのも大事なんですけど、まずは地元からそういうかわりを持って育成をして、人をつくっていききたいと思います。

○議長（福田 茂樹君） 山口議員。



○議員（５番 山口 博君） ぜひ、私は、温泉なり、あるいは三朝町の活性化のためにいろいろ提言してくれる人材を集めて、いろんな意見を出して、その中でこれはいいなと思われるようなものを実行していく。予算をつける。そういうような形がこれから必要じゃないかと思うんです。失礼な言い方ですけども、これまでのような審議会とかなんとかですと、ほとんど顔ぶれが変わらないとかいうようなところも非常に私は気にしておるところでございますので、いわゆる年齢から、職業から、あらゆる階層の人が集まって、思いつくことでもいいから、次々発言するような、そういうふうな組織で人づくりをぜひ続けてやっていただきたいなと思いますので、ぜひその辺は取り組みを考えていただきたいと思います。

それから、三徳山と三朝温泉の日本遺産の登録というのは非常に三朝にとっては大きな財産がふえたと思いますし、徐々にふえているというふうな先ほど答弁もありましたけども、例えばこれがいつまでも続くというふうに考えるのはどうかなという思いもあるんですけども、町長はこの大きな財産でもあります日本遺産をどのように捉えておられるでしょうか。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 現在も日本遺産ブームというのがあって、今は貴重な観光資源だと思っておりますけど、必ず波はいつの時代にもやってきますので、やはり三朝の観光の基本となる温泉の部分と、それから三徳山の文化財の部分というのは、常にどういうふうに活用していくかということは考えて進めなければならないと思っております。

○議長（福田 茂樹君） 山口議員。

○議員（５番 山口 博君） 確かに日本遺産というのは大きな財産ですけども、それにプラスアルファの形で、例えば１泊だったものが２泊になるような形、先ほども言いましたように体験型を付加するとか、あるいはいろいろ三朝の資源であります山道、林道などを活用したトレッキングであったりウォーキングであったりと、そういうこともやっぱり必要ではないかなというふうに思います。

それから、みんなが潤うという言葉は私は使いましたけども、やっぱり観光に関しては、竹田の谷とか中の谷とか小鹿の谷とかでは、多少というより、かなり温度差があるだろうと思います。そういう点において、先ほど言いましたように体験型で農業なり林業なりを経験するように、いわゆる奥部のほうにも出かけていけば、皆さんも関心を呼ぶでしょうし、また、そこによって多少の金が落ちるであろう。やっぱりそういうことによって町内全体が潤うというようなことをぜひこれから進めていかなきゃならないところだろうと思います。いわゆる温度差をなくする観光の取り組みが大事だろうと思っております。

先ほど地域協議会等も含めてということで答弁があったようですが、地域協議会には観光面ではどういうふうな役割を期待しておられるでしょうか。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 地域協議会に観光面でのことを期待をするというよりは、いわゆる体験というのは、受け入れる側の、例えて言えば農家であったり地域であったりしたときに、非常に簡単そうで難しいところがあります。今、すごく体験型観光というのがまた各地で少しずつ出てきております。着地型観光だとか出てきておりますけど、以前に三朝町もグリーンツーリズムで手がけたことはありますけど、非常に受け入れる体制というのが、観光客をまた迎え入れるいろんなことでの苦しみとか、また喜びもありますけど、そういう面がありまして、一律にはなかなかいかないと。だから自分のところの地域の中で、ここだけは外から来ていただいて受け入れる体制ができて、それだけのもとの資源があって、そういうところがあるところから伸ばしていきたいと、一つのテストケースみたいなものをもう1回つくってやらないと、下手をして何も準備をせずに持っていってもかえってマイナスになることもありますので、その辺はちょっと地域の皆さんが、そういう意欲のあるところについて、少し加わって、問題を解決しながらつくっていったほうがいいのかなと思います。

○議長（福田 茂樹君） 山口議員。

○議員（5番 山口 博君） これからはだんだん観光客の人たちのいわゆるわがままにいかに応えるかというのがこれからは必要になってくるんじゃないかと思います。そういう点においては、多様なメニューを設定して、それを広くSNSなどで広げていって、飛びついていただけるようなやっぱりPRが必要ではないかなというふうに思っておりますので、ぜひその辺は地域の力もいただきながら取り組んでいただきたいというふうに思います。

次に、先ほど現代湯治、いわゆる温泉の医療利用、それから外国人、いわゆる国内旅行者が減ることに対応するインバウンドのことを触れられましたけども、確かにやっぱり三朝温泉のすばらしさを医療に生かすというのは、これからまだまだ伸ばせれる部分ではないかなというふうに思っております。残念ながら、今、岡大の分室が使えない状態にはなっておりますけども、質問には触れてませんでしたけども、一日も早くあそこの再開なり、あるいは岡大からの譲渡等を有利な形で受けるようなことにぜひ取り組んでいただきたいと思いますが、その辺の取り組みの思いを聞かせてもらえませんか。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 岡大の分室の熱気浴施設の件は、これまでなぜ進んでないかという、そ

のことをしっかりと把握をして、岡大と協議をしながら、タイミングを逃さずにできるだけ前に進むように進めてまいりたいと思います。

○議長（福田 茂樹君） 山口議員。

○議員（5番 山口 博君） ぜひいい形で解決していただくように進めていただきたいと思います。

次に、先ほど触れましたけど、他の観光地等を見ますと、強力なリーダーが頑張っていて、地道な活動でいろいろ全国的に名前が知られるようになっていくということをよく聞くわけですけども、やはり三朝町でそれぞれの観光団体が、旅館組合であったり観光協会であったり商工会が、もちろん時々の連携はあるかもわかりませんが、基本的にはそれぞれの独立の活動だと思っておりますので、その辺をやはり束ねることが私は必要ではないかということで、前に一般質問で三朝版のDMOをつくられたらどうですかというふうなことを提案したわけですけども、残念ながら具体の動きには至っておりませんが、今、中部あるいは県でDMOが存在しておりますけども、町長はその辺をどのように見ておられるか、お聞かせ願いたいと思います。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 三朝温泉の組織をリーダーシップを持って、そういうリーダーをつくってやっていくというのは非常に大事なところだと思います。これまでなかなかできなかったとか、そういうまとまりがつかれなかったというのも大きな課題ではあります。観光三団体なり、NPOなり、そしてその周辺の中でそういう活動体がつくれた段階で、一つにまとめられる、そういう時期かなという、一つのいわゆる共通認識が皆さんができたときが一つの時期かなというふうに思っております。

それで、DMOにつきましては、今、鳥取中部観光推進機構が地域連携DMOとして発足を始めて、まだ四、五年ですかね、二、三年ですか、ようやく軌道に乗りつつありますので、当面はそこがやはり中部の中心として、DMOとしてやっていくべきだというふうに思います。その中で観光の中でのいろんな組織だとか、いろんな事業者さんだとか、そういったところを取りまとめていただいて、それができて三朝でそういうのが育ってくれば、それが一つのきっかけとなって前進してくるのではないかなという気がしております。以上です。

○議長（福田 茂樹君） 山口議員。

○議員（5番 山口 博君） 山陰のインバウンド機構でしょうか、あそこのトップに座っておられる方は大手の旅行業者のOBの方だというふうに聞いております。やはり既存の組織等はプロフェッショナルという面においてはちょっと力がないだろうと思いますので、例えば大手の旅

行業者のOBなどを呼んできて、それをリーダーに据えて、やっぱりがんがん攻めの姿勢で取り組むということもこれからは必要じゃないかなというふうに思います。そういう点ではやっぱり町長にリーダーシップといますか、これまでお任せじゃなくて、これからは、町長も長年企画、観光的な立場で仕事をしてこられたわけですから、その辺をぜひ発揮していただきたいと思いますが、その辺、どのように考えられるでしょうか。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 私は町長としてリーダーシップをとっていきたいと思いますけど、別な形で外部でそういう、皆さんが持っておられる人脈の中でそういう方がおられたら、アドバイスをもらうのも一つの方法だと思います。

○議長（福田 茂樹君） 山口議員。

○議員（5番 山口 博君） 立ちどまることなく、ぜひ前進するような形でいろんなことを取り組んでいただきたいと思います。

最後にちょっと触れますが、私の質問の冒頭に、町村合併をしないできた三朝、これからも進めるという考え方で、言葉を使いましたけども、町長は、町村合併について、三朝町が今後どうあるべきか、その辺の思いは、言葉に対する思いはどうか、ちょっと聞かせてもらって、終わりにしたいと思います。予告しておりませんので。

○議長（福田 茂樹君） 通告にありませんけど。

○議員（5番 山口 博君） よろしければ。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） そこに、さっき議員が言われました言葉も全く私の頭にはございませんで、合併のことも全く私の頭にはございません。以上です。

○議員（5番 山口 博君） 以上で終わります。

○議長（福田 茂樹君） 次に、小学校統合についての質問を許します。

山口博議員。

○議員（5番 山口 博君） 小学校統合について、町長、それから教育長にお伺いいたします。

三朝町の義務教育にとって喫緊の課題は言うまでもなく小学校統合であり、新校舎の建設であり、待ったなしの状況にあることは言うまでもありません。

町長は、今般の選挙公報で、教育の町みさきビジョンを策定して次代の人づくりを推進するとし、このビジョンにおいて、小学校統合をスピード感を持って取り組むとしておられますが、具体的には小学校統合と校舎建設をどのように進めようとしておられるのか、そして、三朝町義務

教育の最終的な全体像をどのように描いておられるのか、町長の考え方を伺うものであります。

また、最近の義務教育の傾向として、小中一貫教育あるいは小中一貫校、義務教育学校の考え方は避けて通れないものとなっており、新校舎建設に当たっては当然検討すべきと考えますが、小中一貫教育について、町長はどのような見解をお持ちか、あわせて伺うものであります。

教育委員会は現在、小学校統合時期を未定としておりますが、来年度の南小学校の新入生は2名と聞いており、町長が言われるまでもなく、このような状況は統合にスピード感を持って取り組まなければならないことを如実に示しているのではないのでしょうか。教育委員会ではかつて、南小学校を先に統合し、その後に東小学校を統合する案を提案していましたが、まさにこの考え方をもう一度検討する必要があるのではないのでしょうか。町長、教育長の見解をお伺いします。

次に、小学校統合後の教育のあり方については、さきに三朝町義務教育の将来像で示されましたが、統合後の校舎問題は議会の反対で不透明な状況にあります。統合後の校舎について、教育委員会は改めて、どのような規模の校舎が必要で、どのような建築場所、建築方法（新築・改築）が考えられるのか、いろいろな面からシミュレーションし、最適と考えられる建築計画を策定し、その結果を町民に示して議会と合意を得る努力をすべきと考えます。私はこれまで統合問題についていろいろ質問してきましたが、待ったなしの状況において、改めて校舎建築について、今後の取り組み等について教育長の見解をお伺いします。

○議長（福田 茂樹君） 答弁、松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 山口博議員の小学校統合についての御質問にお答えいたします。

山口議員から、小学校統合について4点の御質問をいただきました。

1点目として、小学校統合と校舎建設の進め方についてでございます。

少子化の進行とともに児童数が減少することで、集団で行う教育活動ができなくなるなど、小学校統合は喫緊の課題であると考えております。新校舎の検討は別の課題として進めてまいりたいと考えております。

2点目として、三朝町義務教育の全体像でございます。

人は活力を生み、子供は宝を基本とし、保育園から中学校までを総合的に捉えて取り組みたいと考えております。

3点目として、小・中学校が連携した教育の取り組みについてでございます。

小学校と中学校が連携し、子供たちを育てることは重要であると考えております。さらに、幼児期から青年期までの総合的な教育方針を研究し、町の宝である次代を担う子供たちの健やかな成長を応援していきたいと考えております。

4点目として、小学校の統合方法についてでございます。

小学校は統合する必要があると考えておりますので、早急に小学校が統合できるよう努めてまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（福田 茂樹君） 答弁、西田教育長。

○教育長（西田 寛司君） 山口博議員の小学校統合についての御質問にお答えいたします。

山口議員から、小学校の統合方法と校舎建設について御質問をいただきました。

変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな人間性、心身の健康、体力をバランスよく育てる教育が必要であると考えております。そのために、小学校の統合は早期に実行することが必須であると日を追うごとにますます強く思う次第でございます。新小学校を立ち上げ、その新小学校に3小学校がお集まりいただくという形で進めてまいりたいと考えております。一つの小学校になることを一番に考えていきたいと思っております。

次に、校舎建設については、私自身、新しい校舎を熱望するものでございます。校舎建設を考えますと、新学習要領が示された今日、教育内容を吟味しながら、必要とされる施設・設備の基本設計を行わなければ見通しが立たない現状でございます。

次に、義務教育の最終的な全体像についてでございます。

校舎をどのようなものにするかということと非常に関連するわけでございますが、生涯教育の視点を持って研究すべき大きな課題でもあると思っております。特に乳幼児期から青年期における教育のあり方として捉えるべき課題であると考えております。

また、徳田教育長の時代に策定されました教育ビジョン並びに教育ビジョンを具現化する三朝町教育研究会の設立は、まさに小中連携教育であり、小中一貫教育を実行するための仕組みであると考えております。さらに、この研究会は保育士も会員として、乳幼児期から青年前期における教育の実践活動を考え行う先駆的な取り組みであるとも考えております。この仕組み、取り組みは、確実に成果を上げている大変すばらしい取り組みであるとも思っております。

続いて、段階的に統合してはどうかという御提案であります。

このことは一度検討された案であり、あくまで3校を同時に新しい小学校でスタートさせることが最善の方法であると私はかたく信じております。

終わりに、教育ビジョンを根底に置き、教育大綱、教育計画を実効あるものと磨いていくことが三朝町の教育にとって大切であると考えます。

将来を見据えた教育環境の整備については、町長部局の関係課とも研究、協議をしてまいりた

いと考えております。

議会の皆様を初め、町民の皆様に一層御理解、御協力、さらには御指導を賜りますようお願い申し上げます、答弁とさせていただきます。

○議長（福田 茂樹君） 山口議員。

○議員（5番 山口 博君） 町長にお伺いします。前に藤井議員あるいは石田議員がいろいろ統合問題とか、あるいは校舎問題等に触れたと思いますけども、松浦町長は、小学校の統合に当たって、小学校を新しく建てるという考え方はどのように思っておられるでしょうか。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） これまでも皆さんに申し上げましたが、私は建てるということは考えておりませんで、とにかく統合を急がないけんということだけでございます。

○議長（福田 茂樹君） 山口議員。

○議員（5番 山口 博君） 今、町長は、当面考えていないというふうに答弁されたと思いますけども、やはりこれから、子供がふえるわけではないですけども、町長に伺います。当面考えられるのは、西小への統合だろうと思います。そうすると、教室が足りないとか、そういう面に対してどのように対応しようと考えておられるのでしょうか。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 現在でも足りないところは改修するなり対応してきております。足りない部分については、当然統合したときに場所がないではいけませんので、その部分を補充していくという考えになろうかと思えます。

○議長（福田 茂樹君） 山口議員。

○議員（5番 山口 博君） 全ての小学校は耐震工事は済んでおりますけども、その耐震というのはやはり震度6以下ぐらいでの対応という形であるようですけども、例えば大きい地震が来たりするということになると、やはり早いうちに新校舎へ取り組み、建築等は考えなきゃならないのではないかと思います、さらに、中学校も50何年以上たっている。小学校より古いわけです。その辺の2つの学校を今後どのような、当面は建てないにしても、永久に建てないわけにはいかないだろうと思いますが、その辺をどのようにスケジュールを考えておられるのでしょうか。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） そのこともこれまでに申し上げましたが、当然に小学校、中学校、義務教育の施設がどういう形で必要かということは計画をつくっていかねばなりません。それは統合と並行していくということで私は考えております。それ以外のことの検討については、教

育委員会がこれまでの過程の中で研究をしてきたりしておりますので、その辺を聞きながら、これから進めていく上での参考にしたいと思います。

○議長（福田 茂樹君） 山口議員。

○議員（5番 山口 博君） やはり町民の人たちは学校がどのような形になるのかというのを非常に心配しているだろうと思います。やはり町長としては明確な答えを示されるべきだろうと思います。

それから、町長、既存の教育方針を見直すという言葉が使われたような気がしますけども、既に教育委員会では教育大綱であったり、あるいは義務教育の将来像であるとかを設定しているわけですけども、これらを含めての見直しということを町長は考えておられるのでしょうか。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 説明不足があったらおわびをしますが、もともと見直すという考えではなくて、統合に当たり、これからの三朝町の子供たちの教育をどういうふうにしていくのかというビジョンを示すということが一番大事でありまして、教育大綱のもとでそれを進めていくという、今のところそういう考えでございます。

○議長（福田 茂樹君） 山口議員。

○議員（5番 山口 博君） それでは、教育長に伺います。2段階の統合は考えてないということでございますけども、来年の入学生は1人か2人だったと思いますけども、30年は18人ぐらいになるんですかね、ということで、20人を切るような、もう非常に厳しい状態になってくるけども、石田議員も質問していたように急いで統合してやらないと、例えば1人での授業で体育とか音楽とかというようなことを考えるときには、やはり一日も早く、これは町長にも伺わなきゃならない話ですけども、スピード感というのをどのように考えておられるのかということもそれぞれ町長、教育長にお聞きしたいと思います。

○議長（福田 茂樹君） 2校の統合のことはこちら……（発言する者あり）

西田教育長。あわせてスピード感。

○教育長（西田 寛司君） 1点目が2段階の統合というお話、もう一つは小学校統合のスピード感についてどう考えるかという2つの質問だったかと思います。

2段階につきましては、今まで私が教育長になってからいろいろ御説明なり御意見を聞く中で、早急に統合してほしいと、そして一緒になるものなら新しい校舎のもとに集まりたいというような御意見がございました。議員がおっしゃるように、小学校が小学校として機能できない人数になりつつある今日においては、建物のことはさておき、とにかく統合することが大切であるとい



うことを強く思っておりますし、先ほど答弁でも言いましたように、校舎については新校舎が望ましいというふうに私の思いを語らせてもらったところでございます。

スピード感につきましては、同様の内容にはなりますが、一刻も早くというのが思いでございます。現在、その危機感のあらわれが、西小学校、南小学校で交流授業を週1回、1、2年生だけですが、していただいております。こんなような取り組みの延長線上に早い統合が実現できたらというふうに思っております。以上でございます。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 私はスケジュール立てをして、きちっと進めていきたいという思いでスピード感ということで考えております。

○議長（福田 茂樹君） 山口議員。

○議員（5番 山口 博君） これは町長、教育長ともにですけども、きちっとしたやっぱりスケジュールを示すことが、今、教育大綱の中から30年統合を削っちゃったわけで、そのまま統合の時期が宙に浮いたような状態になっておりますので、これはスケジュールをきちっと示して町民に説明すべきだと思いますので、ぜひそれをやっていただきたいと思います。

それから、校舎問題については、町長は当面手をつけない考えのようですが、教育長は新築希望ということもありますけども、いずれは新築しなきゃならない。となってくると、やはり町民がみんな、ああ、いい小学校ができたと言わしめるようないろんなシミュレーションをやって、三朝町の教育にふさわしい校舎をつくるべきだと思いますので、それは準備はしても遅くはないだろうと思います。いつ建築にかかるかは別として。教育委員会としてはこういう建物が欲しいんだというふうなことをぜひ示すべきだと思います。その辺を、教育長、最後に聞かせてください。

○議長（福田 茂樹君） 西田教育長。

○教育長（西田 寛司君） 新校舎への思いを形にして示すべきだというお話だったかと思います。基本設計ということで、具体的な設計とは違いますが、仕様、部屋の一間の広さとか、そういうような基本的なところの設計といいたいまいしょうか、考え方をまとめるという意味で進めてまいりたいと思いますし、それが実現するかどうかというのはまた別問題であろうかと思います。

については、基本設計とか、その経費についてまた御相談することがあろうかと思いますが、ひとつよろしくお願ひしたいと思います。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（福田 茂樹君） 山口議員。

○議員（５番 山口 博君） 統合問題はもう待ったなしの状況であることは皆さんが認識していることだろうと思います。三朝町の宝である子供たちが一日も早くいい環境で教育が受けられるように、町長、教育長が連携して取り組んでくださるよう希望して、質問を終わります。以上です。

○議長（福田 茂樹君） 以上で山口博議員の一般質問を終わります。

.....

○議長（福田 茂樹君） 次に、６番、清水成真議員の今後４年間の町政についての質問を許します。

清水成真議員。

○議員（６番 清水 成真君） まずは、１０月に行われました町長選挙におきまして御当選されました松浦新町長、おめでとうございます。

私は、今後４年間の町政を引っ張っていかれるに当たり、その決意と目標についてお伺いをいたします。

松浦新町長は、三朝町の一番の課題は人口の減少問題であるとの認識であったと思っております。三朝町の人口の減少は著しいものがあり、その対策については、松浦町長も選挙前の公約で何とかしたいというふうに言われておりました。町長が描かれている具体的な人口減少問題に対する方策をお聞かせください。

次に、現在、保護者の皆様が心配されている小学校統合問題についてお聞きをいたします。

今現在であります、どのような構想を描いて、小学校の統合を進めていかれるのか。選挙前にロイヤルホテルで開催されました討論会では、中学校も視野に入れたいというような発言があったと記憶しております。松浦町長が小学校統合についてどのように考えておられるのかお聞かせください。

最後に、観光対策についてお聞きをいたします。

三朝温泉・三徳山が日本遺産に登録されてから３年目が終わろうとしております。その間、積極的に海外まで宣伝をしてきましたが、なかなか宿泊客、観光客がふえておりません。もちろん昨年の中部地震の影響もあったわけではありますけども、倉吉の白壁土蔵群、赤瓦などは非常ににぎわっております。三朝温泉・三徳山の観光地としての魅力づくりについて、どのように考えておられるのかお聞かせください。

○議長（福田 茂樹君） 答弁、松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 清水成真議員の今後４年間の町政についての御質問にお答えします。

私は、このたび町長として町政運営の重責を担うことになりました。昨日の所信表明の中でも申し述べさせていただきましたが、改めてその職責の重さを厳粛に受けとめているところであります。

議員より、今後4年間の町政に向け、その決意と目標についての御質問をいただきました。

私は、これから三朝町がもっと元気ですてきな町になるよう全力で取り組んでまいります。目標を達成するためには、活躍する町民、元気な町民を一人でも多く育ていかなければなりません。小さな町が輝き続けるためには、住民と行政のパワーアップが必要不可欠であり、そのことが元気ですてきな町をつくる原動力になると思います。町民の皆さんと一緒に汗をかき、町民の目線を大切にしながら進めてまいります。

次に、具体的な人口減少問題に対する方策について御質問をいただきました。

人口減少にはさまざまな原因があると思われませんが、地方におきましては、都会への一極集中の社会構造の問題が大きく影を落としているものと考えられます。多くの若者が都会の学校へと進学し、就職して、ふるさとを離れていきます。ふるすとは寂しくなるばかりといった状況は、全国で多くの自治体が頭を悩ませている問題であり、特効薬もなかなかないのが実態です。

私は、日本の人口全体が減少傾向に転じる中で、町の人口減少をとめることはなかなか難しいとは思いますが、施策によっては緩和することはできるのではないかと考えます。一つには、人が減っても安心して豊かに暮らせることのできる町づくりをしなければなりません。また、一方で、若い人に住んでいただける町、若い人に選ばれる町になることで、町に活気が出てくればとも思っております。

人口減少への対策は、総合的な取り組みです。Uターンの推進につきましては、都会から戻りたいと思えるようなふるさとづくりやそのための支援も必要です。また、保育料の無償化や通学費の助成、医療費の助成など、現在町が取り組んでいるさまざまな支援につきまして、それを受ける子育て世代側の視点で確認をしながら、より効果のある仕組みに見直しをし、その情報の発信に努めることも必要です。

子育て世代のニーズを酌み取り、雇用対策や魅力ある教育環境の整備など、総合的な魅力をつくり出すことがこの世代を引きつける鍵になるのではないかと、そんな気がしております。諦めるのではなく、皆さんに住んでもらうためにはどうしたらいいか、一緒に考えて施策をつくり、若者にとって魅力的な定住・子育て環境をつくり出すことで、子育て、働き盛りの世代を引きつけ、人口減少へ挑戦していきたいと考えます。

次に、小学校統合の考え方についての質問でございます。

少子化の進行とともに児童数が減少し、学校運営に支障を来しているということで、統合は避けて通れないと考えております。

保育から中学校までの教育期間に確かな学力、豊かな人間性、心身の健康と体力をバランスよく育てながら、国際化社会への対応、特色ある教育プログラムも取り入れた教育を進めたいと考えております。

小学校の校舎につきましては、必要とする教室の種類、各教室の部屋数や大きさを研究し、社会教育や地域との連携等も含めた学校づくりが必要であると考えております。中学校の教育環境につきましてもあわせて考える必要があり、総合的かつ計画的に取り組んでいく必要があると考えております。

このように、教育の将来計画を描き、財政計画も考え、計画性を持って整備を進めていくことが特に必要であります。三朝町の未来に笑顔という花をたくさん咲かせるよう、邁進してまいりたいと考えております。

最後に、三朝温泉・三徳山の観光地としての魅力づくりについてでございます。

三朝町は、三朝温泉で多くの観光客を迎え入れております。一方、三徳山も豊かな自然環境と歴史文化を大切にするなど、両資源とも長年にわたって保存と活用を怠ることのなかった皆さんの努力が日本遺産第1号の認定をいただくことにつながったと考えております。そして、この礎となったのは、もてなしの心と人間味あふれる町民皆さんの御尽力に加え、これまで町民と行政がお互いを信頼し合って町づくりを進めてきたことにあると思っております。

今後も、このことを大切にしながら、鳥取県を代表する温泉観光地としての責任を果たしてきた歴史を重く受けとめるとともに、日本遺産であることの誇りを持って、さらなる魅力づくりに取り組んでいきたいと思っております。

加えて、長期的な視点の中で、将来に自信を持って引き継いでいくことのできる観光資源として、皆さんの英知を結集し、さらに町の魅力に磨きをかけ、情報発信をしていきたいと考えます。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（福田 茂樹君） 清水議員。

○議員（6番 清水 成真君） まずは人口減少の問題であります。町長の答弁、抽象的なところがたくさんあって、具体的なものというのがあんまり聞こえなかったかなというふうな思いがありますが、私も選挙の間、いろいろと町民の人と話をしました。何で若い人たちが帰ってこないのかなというようなところで、やはり仕事がないというのが一番多かったような気がしております。若い人たちが帰ってきてても仕事がないからやはりこちらのほうに帰ってこれないんだという

ふうなことで、なかなか希望する仕事が見つからないというようなことが第1の原因ではなかったのかなというふうに考えておりますが、私は、仕事がないというふうを考えるのではなくて、やはりこれから、町長もきのう言われた所信表明の中で、起業していく支援をしていきたいというふうなことが書いてありましたが、やはり仕事をつくっていくというふうな考え方が必要ではないかと思いますが、その点についていかがでしょうか。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 清水議員のおっしゃるとおりだと思います。同感でございます。

○議長（福田 茂樹君） 清水議員。

○議員（6番 清水 成眞君） やはり仕事をつくっていくということについては、今、非常にいろんな環境整備をしていかないと、なかなか若い人たちがこちらのほうに帰ってきて仕事をつくることもできないということでもありますので、今、空き家対策事業もなかなか進んでいない状況があります。そういう中で、やはり総合的な問題としてということをつらつら、町長、言われるわけですが、空き家対策事業もそうですし、起業していく若者たちを呼んでくる対策もそうです。そういうものもやっぱり総合的な感覚としてやっていくという考え方でよろしいですか。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 町でいろいろな子育て支援だとか、今言われた空き家対策だとか、起業支援だとか、そういったものをやっぱりつなげて、総合的な対策でかかってこない、人口対策はこうだというのは難しいと思います。

○議長（福田 茂樹君） 清水議員。

○議員（6番 清水 成眞君） やはり移住定住という問題になると、定住ということは、今現在ここにおられる方々、何とか定住していただきたいという問題もありますが、人口はやはり移住してきていただかないと、魅力ある町でないと移住してこられないわけですね。例えばおじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、子供たち3人ぐらい、7人か8人でこちらの三朝町に移住してきたいというような希望があった場合、やはり考えるのは、おじいちゃん、おばあちゃんは、高齢者福祉どうなっているんだろうか、病院はあるんだろうか、きちんと医療対策はできているんだろうかということを考えるわけですね。お父さんは仕事があるかどうか、お母さんとしては、やはりちゃんとした学校がきちんとあるんだろうか、子供たちはいじめられないだろうか、そのようなことを考えるわけですね。子供たちは子供たちで、友達ができるだろうかとか、きちんとした環境整備があるんだろうかとか、そういうことを先回も私も前の町長には言ったわけで

すけども、やはりそういうことを考えるのが総合的な対策になっているんじゃないかなと思います  
すが、町長はいかが考えられますか。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 町がしっかりした体制をつくって、町民の方がそういうことで住んでい  
て心配することがないみたいな、そういう体制ができれば、おのずと外から来られる人も町民と  
同じ気持ちになって、生活できて、その対応もできてくるというふうに思っております。

○議長（福田 茂樹君） 清水議員。

○議員（6番 清水 成眞君） そうだと思いますね。今の現在の町民の人が安心・安全で本当に  
暮らしやすい町になっているかということも一つの課題であるような気がいたしておりますが、  
その中で、空き家対策事業等々も町はきちんとやっておられるというようなこともわかってお  
りますけども、以前、やはり人口減少の問題として、私は非常にアピールが下手くそだなと思っ  
ているんです、三朝町は。これだけ豊かな自然があり、これだけいい温泉があり、人口の減少は、  
やはりそういうようなことをきちんとアピールする。そして三朝町に住んでよかったなと感じて  
いただける、三朝町に行きたいということを感じていただけるような町づくりをしないと、人口  
減少問題にはつながらない。そのように感じておるわけであります。

その中で、ホームページは見られたと思います、三朝町のね。非常に何か、もう見てもつま  
らないようなホームページであります。空き家対策のホームページを見ましたら、6件か7件載  
っておりますね。家の外見の写真だけしか載っておりませんし、必要な情報が載っておらないよ  
うな状態であります。そういうような状態の中で、やはり総合的に人口減少問題を考えるに当た  
っては、そういう細かいところからやはり変えていく必要があると思いますが、町長、いかがで  
すか。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） そうだと思います。私も努めてそういう視点でうちのホームページを見  
たり、ほかのホームページも見たりしております。言われるように、もう少しわかりやすく、探  
しやすくすべきだなと思います。議員はそういうところにすぐたけた能力を持っておられます  
ので、いい例がありましたら教えていただければ勉強したいと思います。

○議長（福田 茂樹君） 清水議員。

○議員（6番 清水 成眞君） 以前、北海道の上士幌町というところに議会は視察に行きました。  
ぜひそのホームページ、北海道の上士幌町のホームページと三朝町のホームページ、ぜひ比  
べてみていただきたいと。非常にあそこに行きたいなというようなホームページがきちんとできて

おりますから、ぜひ参考にしていただければと思います。

以上で終わります。

- 議長（福田 茂樹君） 終わる。ほかの小学校とかあんなんは。それも含めて。
- 議員（6番 清水 成真君） ごめんなさい。
- 議長（福田 茂樹君） だって1問で全部やっておられますので、びっくりしちゃう。
- 議員（6番 清水 成真君） 間違えました。小学校は小学校で。
- 議長（福田 茂樹君） 清水議員。
- 議員（6番 清水 成真君） 小学校の統合問題であります。少し整理をしていきたいなと思っておりますが、統合問題と校舎の問題、これ分けてちょっと話をしないと、非常にわかりにくい話になっていきますので、まずは統合の問題についてちょっとお聞きをしたいと思っておりますが、今現在、先ほどの答弁をずっと聞いている中で、三朝町教育大綱、三朝町教育ビジョンがある。それをちょっと変えて、新しく教育の町みささビジョンというものを策定したいんだというような所信表明がありました。この教育の町みささビジョンを策定するということは、そこができないと新しく統合もできていけないという意味なのか、統合はするんだけど、ビジョンは後でつくられるという意味なのか、どっちなのかちょっとお聞きをしたいと。
- 議長（福田 茂樹君） 松浦町長。
- 町長（松浦 弘幸君） 統合の問題と校舎をつくる問題を整理していかないけんというのは、どっちかというのと全体の考え方の中で私は思ってまして、私は分けて考えているんですけど、何か周り是一緒こたになってしまっておるようなことがあって、言われるとおり整理をして進めるべきだと思います。
- ビジョンの件につきましては、公約のときにもなぜ言ったかという、これまでの経過を外から聞いて、学校を統合するだったら地域のほうからビジョンを示すべきではないかという声があったというのを聞いておりましたので、そういうことを申し上げさせていただいた、そういう意味でのビジョンでございます。
- 議長（福田 茂樹君） 清水議員。
- 議員（6番 清水 成真君） 今までビジョンを示すべきではないかということで、ことしの7月に教育委員会のほうからこういうようなビジョンでA3判のものが出ました。そこにはスケジュールも下のほうに書いてありましたが、そのビジョンではだめだということですか。
- 議長（福田 茂樹君） 松浦町長。
- 町長（松浦 弘幸君） 私が思ってますのはそうではなくて、学校を統合するときに、統合した

小学校は、こういう、何ていうか、保育園の児童と小学生との連携だとか、それからどういう教育を中心にやっていく。どういう教科を主体にする。どういう子供たちを育てていく。将来オリンピックに出るような子供を育てていくような目標もあってもいいと思うんですけど、そういうのを示してあげて、その中であわせて統合した学校と地域との連携、社会教育との連携はどういうふうにしていくんだと、そういうもんを示して初めて統合になるという、学校をつくるということになるんじゃないかなと、そういうふうな気持ちであります。

○議長（福田 茂樹君） 清水議員。

○議員（6番 清水 成眞君） わかりました。つまり学校をつくるという校舎の問題としてのビジョンも含めてビジョンを作成したいということであって、統合はスピードを持って統合させなきゃいけないという認識でよかったですでしょうか、今の認識は。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 校舎をつくるというのはちょっと別な形にはなるんですけど、当然関連して、少し時期がずれてでも、統合が終わった後には全体的な教育の環境、中学校の環境を含めたもんはつくっていかないけんと思いますけど、まずは統合するためにどういった教育を新しい学校であるかというのはつくっておくべきだというふうに思います。

○議長（福田 茂樹君） 清水議員。

○議員（6番 清水 成眞君） まず統合の問題として、やはり早く統合してほしいというのもこちらの意見としてもありますし、町民の意見としてもあるわけであります。私としても、石田議員が言っておられた来年の4月からみたいなことを思っておりましたが、なかなか人事等々の問題がやっぱりありますから、ぜひ、私は、来年、30年度1年かけて、西小学校、南小学校、東小学校、1年かけて統合するんだというようなことで話をぜひ進めていただきたい。1年かけて西小学校のほうに整備が必要な場合は西小学校を整備し、そして来年、31年度の4月からできる限り早く統合ができて、そこに通えるような形に進めていただきたいと私自身は思っておりますが、町長はどのような形で統合については考えておられますか。私の意見に対してですよ。いいのかわからんけど。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 統合の関係はこれまでも教育委員会のほうがずっと準備を進めてきていると思いますので、そのいわゆる作業がとまらないように、一緒に入ってというか、経過を聞きながら進めるように努力をしていきたいと思います。

○議長（福田 茂樹君） 清水議員。



○議員（6番 清水 成真君） それじゃあ校舎のほうであります。統合した後、校舎の問題が多分恐らくいろんなことで出てくると思います。恐らく西小学校に統合するんだらうなというふうに考えておりますが、その後、建設するのか。新築でね。それとも今の西小学校を改築してもたせていくのか。今の町長は何となく新築に対しては、ちょっと財政面もあってなかなか本腰ではないような答弁があったのかなというふうに考えておりますが、その点はちょっといかがでしょうか。もう一度。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 建設については、何か消極的というわけではなしに、現実的に町の財政状況をきちっと方向を見て、それでじっくりと、中途半端なものではなしに、将来の児童の数だとか、さっき教育長が言われましたけど、必要となるもの、それから三朝町の教育の柱をどういうふうにしていくか、そういうことを踏まえて建物というのはつくるべきだというふうに思っております。それとあわせて、将来の教育環境をどういうふうにするかというのをあわせて考えて、整備する順番はそこから決めていくという、そういうスタンスでないと、これからの時代に乗りおこなってしまうというか、これまでの三朝町のそういう町づくりのあり方、施設整備のあり方の反省を踏まえて、そういうふうな全体構想を持ってやりたいという思いでございます。

○議長（福田 茂樹君） 清水議員。

○議員（6番 清水 成真君） そうなると、一段と何となく遅くなりそうな気がしてならないような気がする。今まで3年間、4年間ずっと教育委員会は統合について、西小学校単独がいいのか、それとも西小と南小を最初にするのがいいのかとか、もうずっと議論を重ねてこられて、最終的にはやはり耐震してある西小学校ではちょっと難しいんだという判断をしたんですよ、教育委員会は。それで判断をして、新しい新築の校舎を建てましょうということで提案されたわけですね。それをまたもう一度そのことも考えていくということですか、今の町長の考え方は。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 私は全く今のところ白紙なので、単純にこれまでの経過を踏まえて、統合と校舎を両方で見進めていきたいと、計画をしていきたいということでありまして、そこで統合が優先をすると、学校整備については別な視点で計画をつくっていかないけんということであります。ただそれだけのことです。

○議長（福田 茂樹君） 清水議員。

○議員（6番 清水 成真君） 今までの議論等々も含めて、それから教育委員会が出されたこういうような資料がたくさんあると思うんですが、それも見ていただいて、やはりもう一度最初か

らもとに戻るのではなくて、今までの議論をきちんと資料等々も、教育委員会は本当にしっかりとした議論をしてきました。その中でやはりこうだというふうな結論を出しておられますので、そのところをやはりきちんと見ていただければなというふうに思っております。そういうふうなところで統合を早めていっていただきたいというのが私の熱望するところでありますので、進めていっていただければと思います。

最後に、観光についてお伺いをするわけですが、三朝温泉、正直見られて活気があるというふうにはあんまり私自身も思っておりません。夜歩くと、タクシーの運転者さんなんかよく言われるんですけども、三朝温泉、本当に人が歩いてないですねなんて言われるタクシーの運転手さんおられるわけでありまして、一時よりはやはりどうしても少なくなったなというふうに感じておられる方、たくさんおられるんじゃないかなと。町長は、今の三朝温泉を見られて、一言でどう感じておられますでしょうか。活気があると感じておられますか。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 久しぶりに三朝の中を歩いてみますと、前よりは活気が出てきたかなというふうには思っています。ただ、4年間あんまり、ちょっと離れていたもので、夜もあんまり行ったことがなかったで、そういうイメージを持ったかもわかりません。一時期、昔に比べたら、それは確かに店も少なくなりましたし、そういう面では活気が落ちるとかなという気はします。

○議長（福田 茂樹君） 清水議員。

○議員（6番 清水 成真君） そういう中において、今後、先ほど山口議員の答弁のほうだったですかね、現代湯治という話があったと思いますが、観光業、これから三朝温泉の観光について、やはり現代湯治は外せないんだということであります。本当に医療と温泉というのは切っても切れないところだと思っております。三朝温泉の起源というのは今から850年前にオオカミがあれして、そして本当に病気を治し、治療して、リハビリをして、そしてトレーニングをしたり、そしてその三朝温泉できちんと治して、そしてまた帰っていくというのが三朝温泉の起源だったというふうに感じておるわけであります。ですからそのところで、現代湯治という言葉がいいのか悪いのかちょっとわかりませんが、何となくもう少し違った表現でもいいのかなというふうには私は考えておりますが、今、医療と温泉とをやはり組み合わせたものを売り出すということが非常にちょっと力が余りないのかな、その売り出し方に、もう少し力を入れて売り出すことを考えてもいいのかなと思っておりますが、町長、いかが思っておられますか。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） おっしゃるとおりだと思います。現代湯治という言葉は、三朝温泉で湯

治を私の課長のときにやったときに使った言葉でして、今、国のほうでもそういう温泉地の湯治文化というのを少しアピールしようという動きができてまして、環境省ではそれを新湯治、新しい湯治という形で、それぞれの温泉地がいろんな取り組みをしていくということです。ですから、九州の大分の長湯温泉というのがあります、ちょっとかわりがあるんですけど、温泉療養保健システムだとか、そういった名前で、来ていただくことによっていろんな特典をつくったり、入浴券を補助するだとか、そういうパスポート制度だとか、食と温泉と組み合わせた、そういったような湯治をしておられるところもありますので、また切り口を変えてやっていきたいと思えます。温泉病院さんのほうもそういうことに関しては、今、鉾泥治療の体験をしておられますけど、あそこ、リハビリもあったり整形外科もあったりしますので、それから温泉療法医さんもおられますので、そういうのがもう少し充実できるようなことをこの前お話をさせていただきましたので、また新たな切り口をつくって行って、やはりそれが三朝温泉の一つの核になるというふうに思っておりますので、そういう形で皆さんと一緒に取り組んでまいりたいと思えます。

○議長（福田 茂樹君） 清水議員。

○議員（6番 清水 成眞君） 現代湯治の今話を聞きまして、私は世界的に治療するなら三朝温泉だというような、そのブランド力というか、ブランドを確立したいというふうに考えているんです。世界的に有名なアスリートの人たちが例えばけがをした。治療したりするときには、三朝温泉に来れば、何とかそういうような自分のためのチームがあって、専門的なチームをつくっていただいて、自分のためにトレーニング、それからリハビリ、そういうことができるんだよ、あそこに行けばというような、そういう体制づくりが、もし売り出すことができれば、またちょっと違った、全国にはない、アスリートのためのそういうようなチームづくりもできますよみたいなところがあれば、非常にまた魅力的な発信もできるんじゃないかなというふうに考えておりますが、ぜひ考えていただければと思います。

倉吉の赤瓦周辺でありますけども、非常ににぎわっておりますね。私もいつもあそこら辺、前を通りますが、インバウンドのお客様はたくさんたくさん来ておられます。最初、当初はあそこは、できたときには大体2万人ぐらいだったそうですが、今はもう60万人以上の方があそこに来られているわけですね。三朝温泉は35万人ぐらいであります、その倍ぐらいの方が赤瓦周辺に来られているわけでありまして。そう考えると、どうしてどんどんどんふえている観光地と、やはり宿泊客が、三朝温泉は55万人からどんどん減っておるわけでありまして、そういうようなところで、どうして差が出てきてしまうのかなというふうに考えておるわけでありまして、やはりそのところをしっかりと検証していかないけんと思うんです。

それで、先日、12月2日の日本海新聞の「海潮音」、見られたとっておりますが、その中に、今の人たちは他の観光客が行かない場所に行き、その土地でないとできない特別な体験をしたいと思う人がふえていると書いてあります。「海潮音」ですからね、個人の方が書かれたわけですけど。ずっと書いておられますが、その中で、全国の自治体が、今、年間3,000万人ぐらい来ているインバウンドの方たちをやはり自分の地方に呼びたいと一生懸命各自治体になっているんだという中で、赤瓦を紹介しているんですよ。倉吉土蔵群で、その中で、倉吉かすりを着る体験や居酒屋体験、農家民泊など、地元にとっては当たり前のことも外の人には珍しく、楽しいことも多いというようなことが書いてあります。これすごくヒントになるなと思っておりますが、町長はどう考えておられますでしょうか。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） そういうふうに思いますが、先ほど山口議員のときにも答弁させていただきましたけど、要はそこに受ける人の体制だと思うんですよ。そういうニーズのあるのもきちっと言われるとおりでございますので、そういうことができる、小さなことでも受け入れる体制ができるということはつくっていかないけないと思いますので、そういう芽があれば、かかわっていくことも大事だと思います。

○議長（福田 茂樹君） 清水議員。

○議員（6番 清水 成真君） ちょっと最後に提案をして終わりたいと思いますが、明治製作所という会社がありますね。あそこは物すごく大きな会社に成長いたしました。タイの工場も私視察に行きました。物すごく広い土地に工場を建てておられますが、まだまだ開発のめどがあるということで、土地だけは物すごく、世界のメーカーがどんどんどんそこに進出してきております。何でこれだけ明治製作所が大きくなったのかなというふうに齋木社長に聞いたことがあるんですよ。あそこは中国電力の中部の電気の10%を使っておるような会社でありますので、どうしてこのような会社が大きくなったんですかって一度聞いたことがあります。そのときに、うちは社員に、一人一人に、全員に企画案を出させるんだと、月に10個は出せと言ってあるというんです。社長がね。そうすると、年間120出さなきゃいけないんです。一人がね。100人おると1,000ですわ。200人おると2,000の案が毎月出てくる。でもそんな企画案出しても大変でしょうと言ったら、しょうもない企画もあるんだと、ちょっとここを直してごせとか、そんなこともあるんだけど、大きいことを考えている社員もたくさんおるんだというようなところで、なるほどな、そういうような企画を持っておられる社員の皆さん、たくさんおられるんだ、若い人たちですけど、毎日毎日仕事をしておられるんですけども、月に10個は出せということ

で、それをずっと守らせているというような話をされました。その中で企画を出してもらった案がいい案は採用して、やはりどんどんどん大きくするんだ。一人ではなかなかできなかったんだというふうなことを言っておられます。

やはり町長ね、これからは、私たち議会や町長だけの頭だけではなくて、たくさんたくさんの方々の案を、企画を聞くべきだなと思っておりますし、三朝町の役場の職員の方々、物すごく優秀なの方々、たくさんおられるわけですから、各方々に企画を出していただいて、その企画をやはり吟味して、それを実行できることがあれば実行していくというようなことも考えてもよろしいんじゃないかなと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（福田 茂樹君） 松浦町長。

○町長（松浦 弘幸君） 考えていきたいと思っておりますし、今の清水議員さんみたいにこういった一般質問の中で議員さんから提案をいただくことも大歓迎ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

○議員（6番 清水 成真君） 終わります。

○議長（福田 茂樹君） 以上で清水成真議員の一般質問を終わります。

----- . ----- . -----

○議長（福田 茂樹君） 以上で本日の日程は終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。

午後 2 時 3 7 分散会

-----